244
3
107

林好本編纂

現行諸罰則禁令

第二編

特
4

035983-001-5

CZ-711-0137

現行諸罰則禁令 第2，3編

内田 清四郎
林 好本／編

M16，17

BBP-0596

東京帝國大學圖書之印

凡例

此編ハ明治十四年七月ヨリ同十六年四月ニ至ル官省ノ布告布達中罰例ニ關スル法令ヲ纂輯シ第二編トス

特16
452

現行諸罰則禁令第二編

目次

法律規則中罰例處斷法
出版條例 附暦
新聞條例
集會條例
傳染病豫防規則
虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶檢査規則
賣藥規則
賣藥印紙稅規則
煙草稅則
酒造稅則
醋麹營業規則
郵便規則
日本坑法
船稅規則

西洋形船々長運轉手機關手免狀規則
北海道諸産物出港稅則並各港船改所規則
樣式取引條例
米商會所條例
米商會所並樣式所仲買人納稅規則
地所規則
舩燈製造及販賣規則
徵發令
請願規則
石油取締規則
清國及朝鮮在留日本人取締規則
雜則
密賣淫
富籤賣買牙保幇助及購買者處分方
水庭電信線路投錨漁業等禁止
醫業

現行諸罰則禁令第二編

○法律規則中罰例處斷法

○太政官布告第七十二号 明治十四年十二月二十八日

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行ニ付法律規則中罰例ニ係ルモノハ左ノ例ニ照シテ處斷スヘシ

第一條 凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第二條 凡禁獄及ヒ禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第三條 凡罰金及ヒ科料ハ貳圓以上ヲ罰金ニ處シ貳圓未滿ヲ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若シハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ヒ各町申付トアルハ總テ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ス

第七條 前數條ノ罪ヲ犯シ拘留科料ニ處スル者ト雖モ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

但始審裁判所々在ノ地ヲ除クノ外ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得

右奉 勅旨布告候事

○出版條例

○內務省達乙第五十五号　明治十五年十月十八日　府縣

神社寺院ノ守札ト可認モノ及神佛号ヲ記載セル畫像ハ其神社寺院ノ外出版不相成儀ト可心得此旨相達候事

但從前屆濟ノ分ト雖モ本文ニ抵觸シ不都合ト認ムル場合ニ於テハ更ニ申出ツヘシ

○暦

○太政官布達第八号　明治十五年四月廿六日

本暦並略本暦ハ明治十六年暦ヨリ伊勢神宮ニ於テ頒布セシムヘシ

一枚摺略暦ハ明治十六年暦ヨリ何人ニ限ラス出版條例ニ準據シ出版スルコトヲ得

但明治九年十月內務省甲第三十九号布達ハ取消ス

○新聞條例

○太政官布告第拾貳號　明治十六年四月十六日

新聞紙條例別冊之通改正ス

右奉　勅旨布告候事

新聞紙條例

第一條　新聞紙ヲ發行セントスル者ハ其發行所ノ管轄廳東京府ハ警視廳ヲ經由シテ內務卿ニ願出テ准許ヲ受クヘシ

時々ニ刷行スル雜誌雜報ノ類ハ皆此條例ニ依ル

第二條　新聞紙發行ノ願書ハ左ノ事項ヲ掲ケ持主若クハ社主ヨリ差出ス可シ

一　題號

二　記載ノ種目政治法律農工商業等ノ類

三　刷行ノ定期又ハ無定期毎日毎週毎月又ハ無定期ニシテ逐號發行スル者

四　發行所及印刷所

五　持主若クハ社主及編輯人印刷人ノ屬籍身分氏名年齡住所

第三條　社長幹事其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス新聞紙ニ署名スル者ハ總テ持主社主ノ例ニ依ル

第四條　新聞紙ノ題號記載ノ種目又ハ持主社主ヲ變更セントスルトキハ更ニ管轄廳東京府ハ警視廳ヲ經由シテ內務卿ニ願出テ准許ヲ受クヘシ

前項ノ外第二條ノ願書ニ掲クヘキ事項ニ於テ變更アルトキハ七日以內ニ管轄廳東京府ハ警視廳ニ屆出ツヘシ

第五條　持主若クハ社主死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ假ニ持主社主ヲ定メテ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得但七日以內ニ管轄廳東京府ハ警視廳ヲ經由シテ內務卿ニ願

出テ准許ヲ受クヽ可シ

第六條　編輯人印刷人ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第七條　内國人ニシテ滿二十歲以上ノ男子ニ非サレハ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス

公權ヲ剝奪セラレタル者ハ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス公權ヲ停止セラレタル及演說ヲ禁止セラレタル者其停止禁止間亦同シ

第八條　新聞紙ノ發行ヲ願出ツルトキハ保證トシテ左ノ金額ヲ納ムヽ可シ但專ラ學術技術統計及官令又ハ物價報告ニ係ル者ハ此例ニ在ラス

一　東京ニ於テハ千圓

一　京都大坂横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓

一　其他ノ地方ニ於テハ三百五拾圓

一　一月三回以下發行スル者ハ各前項ノ半額

第九條　保證金ハ持主若クハ社主ヨリ爲替方又ハ銀行ノ預手形或ハ時價ニ準シタル公債證書ヲ以テ管轄廳東京府ハ警視廳ニ納ムヽ可シ

新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ禁止セラレタルトキハ保證金ヲ還付ス

第十條　新聞紙發行ノ准許ヲ得タル日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルトキハ其准許ノ

効ヲ失フ者トス

刷行ノ定期ニ發行セサルトキハ七日以内ニ休業ノ旨ヲ管轄廳東京府ハ警視廳ニ届出ツヽ可シ

休業届出ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ再ヒ發行セサル者亦前項ニ同シ

無定期ノ新聞紙前號刷行ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサル者亦同シ

第十一條　新聞紙ハ毎號ニ持主若クハ社主及編輯人印刷人ノ氏名幷發行所ヲ記載スヘシ

第十二條　發行所ノ外ニ於テ發賣スル者ハ其發賣所及發賣人ノ氏名住所ヲ管轄廳東京府ハ警視廳ニ届出ツヽ可シ

第十三條　新聞紙ハ其刷行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳東京府ハ警視廳及本管始審裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムヽ可シ

第十四條　新聞紙ニ記載シタル事項治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スル者ト認ムルトキハ内務卿ハ其發行ヲ禁止若クハ停止スルコトヲ得

第十五條　各地方東京府ヲ除クニ於テ發行スル新聞紙前條ニ觸ルヽ者ト認ムルトキハ府知事縣令ハ其發行ヲ停止シ内務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フ可シ

第十六條　新聞紙ノ發行ヲ禁止若クハ停止シタルトキハ内務卿ハ其新聞紙ヲ差押ヘ又ハ發賣ヲ禁シ其情重キ者ハ印刷器ヲ差押フルコトヲ得

府知事縣令ニ於テ停止ヲ命シタルトキハ其新聞紙ヲ差押ヘ及發賣ヲ禁スルコトヲ得ルモ內務卿ノ指揮ニ非サレハ印刷器ヲ差押フルコトヲ得ス

第十七條　一人又ハ一社ニシテ數個ノ新聞紙ヲ發行スル者一個ノ新聞紙ヲ停止セラレタルトキハ其停止中他ノ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得ス

第十八條　新聞紙ニ記載シタル事項ニ關スル犯罪ハ持主社主編輯人印刷人及筆者譯者ハ共犯ヲ以テ論ス

第十九條　新聞紙ニ記載シタル事項ニ關スル犯罪ハ其情狀ニ因リ裁判官ニ於テ犯罪ニ係ル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得

其告訴告發ヲ爲スニ際シ豫審判事檢察官警察官ハ裁判確定ニ至ル迄犯罪ニ係ル新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十條　裁判確定ノ日ヨリ七日以內ニ裁判費用及罰金ヲ納完セス又ハ損害ヲ賠償セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ可シ仍ホ足ラサルトキハ刑法第二十七條及第四十七條ニ依ル

保證金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ持主若シハ社主ハ管轄廳ハ東京府廳ハ警視廳ノ通知ヲ得タル日ヨリ七日以內ニ其欠額ヲ納完ス可シ若シ納完セサルトキハ其新聞紙發行准許ノ効ヲ失フ者トス

第二十一條　准許ヲ得ス又ハ准許ノ効ヲ失ヒタル後私ニ新聞紙ヲ發行スル者ハ持主社主編輯人印刷人各六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加シ仍ホ其發行シタル新聞紙ヲ沒收ス其禁止停止ノ處分ヲ犯シ及第十七條ニ違テ發行シタル者亦同シ

第二十二條　詐僞ノ願書若シハ屆書ヲ差出シタル者及第四條第一項第五條ニ違フ者ハ持主若シハ社主一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加ス編輯人印刷人情ヲ知ル者亦同シ處斷ス

前項ノ場合ニ於テ內務卿ハ其新聞紙ノ發行ヲ禁止若シハ停止スルコトヲ得

第二十三條　第四條第二項及第十條第二項第十一條第十二條第十三條ニ違フ者ハ持主若シハ社主拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其第十一條ニ違フ者ハ編輯人印刷人亦同シ處斷ス

第二十四條　禁止セラレタル新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス犯ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

停止セラレタル新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人ハ停止間他ノ新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス犯ス者ハ罰前項ニ同シ

第二十五條　沒收若シハ差押ノ處分ヲ受ケ又ハ發賣ヲ禁止セラレタル後其新聞紙ヲ發賣又ハ頒布シタル者ハ發賣頒布者受賣者ヲ問ハス各拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　新聞紙ニ記載シタル事項ハ其原稿ヲ刷行ノ日ヨリ三週間保存シ官署ノ訊問ニ備フ可シ違フ者ハ編輯人拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條　新聞紙ニ記載シタル事項ニ付官署ヨリ其出所ノ訊問ヲ受ケタルトキハ之ヲ證明ス可シ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ

第二十八條　新聞紙ニ記載シタル事項ニ付裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ニ於テ直ニ宣告ノ全文ヲ掲載ス可シ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ

第二十九條　新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付關係アル者ヨリ正誤ヲ求メタルトキハ其求ヲ得タルヨリ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ別ニ一欄ヲ設ケ正誤ノ文ヲ掲載シ又ハ正誤ス可シ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ但其正誤ノ趣意法律ニ觸ルヽ者及之ヲ求メタル者ノ氏名詳ヲサルトキハ此限ニ在ラス

第三十條　他ノ新聞紙ヨリ抄錄セシ事項ニシテ其新聞紙ニ正誤ヲ載セタルトキハ關係アル者ノ求ナシト雖モ其新聞紙ヲ得タルヨリ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ正誤スヘキコト總テ前條ノ例ニ依ル

第三十一條　式ニ依リ宣布セサル公文及上書建白請願書ハ當該官司ノ許可ヲ得ルニ非

サレハ之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三拾圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其大意ヲ錄シ若シハ草按ヲ掲載スルモ亦同シ

第三十二條　官省院ノ議事及府縣會ノ傍聽ヲ禁シタル議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同シ

第三十三條　重罪輕罪ノ豫審ハ公判ニ付セサル以前ニ之ヲ記載スルコトヲ得ス裁判官審判ノ議事及傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ辨論ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同シ

第三十四條　陸軍卿海軍卿ハ特ニ命令ヲ下シテ軍隊軍艦ノ進退及一般ノ軍事ヲ記載スルコトヲ禁スルコトヲ得其禁ヲ犯ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ三拾圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情重キ者ハ印刷器ヲ沒收ス

外務卿ハ外交上ノ事件ニ付特ニ命令ヲ下シテ記載ヲ禁スルコトヲ得其禁ヲ犯ス者ハ罰前項ニ同シ

第三十五條　新聞紙ヲ以テ人ヲ敎唆シ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法ノ例ニ依ル其敎唆ニ止マル者ハ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減ス

第三十六條　刑法第二編第一章ノ刑ニ觸ルヽ者ハ印刷器ヲ沒收ス

第三十七條　政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタル者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ百圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其第三十五條ニ觸ルヽ者ハ重ニ從テ處斷ス

本條ヲ犯ス者ハ其印刷器ヲ沒收ス

第三十八條　成法ヲ誹毀シテ國民法ニ違フノ義ヲ亂ル者及顯ハニ刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論ヲ爲ス者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十九條　猥褻ノ文辭圖畫及誹謗ヲ寓シタル戲畫ヲ揭載スルコトヲ得ス犯ス者ハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條　第二十九條ノ場合ニ於テ被害者ノ私事ニ係ル者ハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四十一條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十二條　外國ノ新聞紙及書籍ヲ譯出シ新聞紙ニ記載スル者亦此條例ニ依ル

附則

現今發行ノ新聞紙ハ東京府下ハ此條例發布ノ日ヨリ其他ノ地方ハ到達ノ日ヨリ三十日以內此條例ニ從ヒ願書及保證金ヲ管轄廳東京府ハ警視廳ニ差出ス可シ若シ期限內ニ差出サヽルトキハ准許ノ効ヲ失フ者トス其願書及保證金ヲ差出シタル者ハ引續キ發行スルヿヲ得

集會條例

○集會條例

○太政官布告第廿七號　明治十五年六月三日

明治十三年四月第十二號布告集會條例左ノ通改正追加シ同年十二月第五十六號布告ヲ廢止ス

第二條　政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結社何等ノ名義ヲ以テスルモ其實政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結合スルモノヲ併稱スル者ハ結社前其社名社則會場及ヒ社員名簿ヲ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ其社則ヲ改正シ及ヒ社員ノ出入アリタルトキモ同樣タルヘシ此届出ヲ爲スニ當リ警察署ヨリ尋問スルコトアレハ社中ノ事ハ何事タリトモ之ニ答辨スヘシ

前項ノ結社及其他ノ結社ニ於テ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メニ集會ヲ爲サントスルトキハ仍ホ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條　管轄警察署ハ第一條第二條第三條ノ届出ニ於テ治安ニ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ認可セス又ハ認可スルノ後ト雖モ之ヲ取消スコトアルヘシ

第五條　二項

警察官會場ニ入ルトキハ其求ムル所ノ席ヲ供シ且其尋問アルトキハ結社集會ニ關スル事ハ何事タリトモ之ニ答辨スヘシ

第六條　二項

前項ノ場合ニ於テ解散ヲ命シタルトキ地方長官東京ハ警視長官ハ其情狀ニ依リ演說者ニ對シ一個年以內管轄內ニ於テ公然政治ヲ講談論議スルヲ禁止シ其結社ニ係ルモノハ仍ホ之ヲ解社セシムルコトヲ得內務卿ハ其情狀ニ依リ更ニ其演說者ニ對シ一個年以內全國內ニ於テ公然政治ヲ講談論議スルヲ禁止スルコトヲ得

第八條　政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ其旨趣ヲ廣告シ又ハ委員若クハ文書ヲ發シテ公衆ヲ誘導シ又ハ支社ヲ置キ若クハ他ノ社ト連結通信スルコトヲ得ス

第十一條　第二條第一項ノ規程ニ背キテ屆出ヲ爲サス又ハ尋問スル所ノ事項ヲ開答セサルトキ社長ハ貳圓以上貳十圓以下ノ罰金ニ處シ詐欺ノ屆出ヲ爲シ或ハ尋問ヲ得テ僞答スルトキ社長ハ右罰金ノ外尙ホ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十二條　第五條ノ規程ニ背キ派出警察官ノ臨席ヲ肯セス又ハ其求ムル所ノ席ヲ供セサルトキ會主會長及社長幹事ハ各五圓以上五十圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ警察官ノ尋問ニ答ヘス又ハ僞答スル者ハ同罪ニ處ス再犯ニ當ル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十六條　學術會其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラス多衆集會スル者警察官ニ於テ治安ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルトキハ之ニ監臨スルコトヲ得若シ其監臨ヲ肯セサルトキハ第十二條ニ依テ處分ス

學術會ニシテ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スルコトアルトキハ第十條ニ依テ處分ス

第十七條　前條ノ場合ニ於テ治安ヲ妨害スト認ムルトキハ第六條ニ依テ處分ス

第十八條　凡ソ結社若クハ集會スル者內務卿ニ於テ治安ニ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ禁止スルコトヲ得若シ禁止ノ命ニ從ハス又ハ仍ホ秘密ニ結社若クハ集會スル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十九條　成法ニ制定スル所ノ集會ハ此限ニ在ラス

右奉　勅旨布告候事

○太政官布告第七十号　明治十五年十二月二十八日

府縣會議員會議ニ關スル事項ヲ以テ他ノ府縣會議員ト聯合集會シ又ハ往復通信スルコトヲ許サス

其集會スル者何等ノ名義ヲ以テスルモ府知事縣令ニ於テ此禁令ヲ犯ス者ト認ムルトキハ直チニ解散ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ解散ノ命ニ從ハサルモノハ集會條例第十三條ニ依テ處分ス

右奉　勅旨布告候事

○傳染病豫防規則

○太政官布告第四拾七號 明治十五年八月二十六日

明治十三年七月第三拾四號布告傳染病豫防規則第八條中病名票貼付ノ儀當分之ヲ施行セス

右奉 勅旨布告候事

○太政官布告第四拾八號 明治十五年九月一日

明治十三年七月第三拾四号布告傳染病豫防規則中左ノ通追加改正ス

第十四條ヘ左ノ一項追加

此場合ニ於テハ醫師タル者吐瀉ノ二症ヲ兼備フル病ヲ診斷スルトキハ總テ檢疫委員ニ届出ヘシ

但本項施行ノ終始ハ地方廳ヨリ之ヲ管内ニ告示シ内務省ニ申報スヘシ

第二十一條左ノ通改正

痘瘡病者アルトキハ第十條第十一條及第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セシムヘカラス其流行ノ際ニハ第十二條ヲ適用スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶檢査規則

○太政官布告第三十一号 明治十五年六月廿三日

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶檢査規則左ノ通制定ス

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶檢査規則

第一條 凡ソ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶ハ檢疫官ノ檢査ヲ受ケ其記名セル許可ノ証書ヲ得タル後ニ非レハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乘組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲ス可カラス

第二條 其船中該病患者又ハ該病死者ナキトキハ檢疫官直チニ其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乘組人船客ノ上陸並積荷ノ陸揚ヲ爲スノ許可ヲ與フ可シ

第三條 若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルトキハ檢疫官其船舶ヲ陸地及ヒ他船ニ傳染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシム可シ

該病患者ハ之ヲ避病院若クハ其住居若クハ其他檢疫官ノ適當ト認ムル場所ニ送致ス可シ其死者ハ若シ緣故人ノ望アル地方官所定ノ場所ニ火葬シ若シクハ十分ノ消毒法ヲ施シタル後之ヲ埋葬スヘシ

前項ノ手續ヲ終リ檢疫官ハ其乘組人船客ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後上陸ノ許可ヲ與ヘ其船舶及傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及積荷ヲ陸揚スルノ許可ヲ與フ可シ

第四條　此規則ニ違背シタル者若クハ此規則ノ執行ヲ妨害シタル者ハ刑法ニ依テ之ヲ處分スヘシ

第五條　此規則施行始終ノ期日並ニ場所ハ其都度内務卿ヨリ之ヲ指定ス可シ

右奉　勅旨布告候事

○賣藥規則

○太政官布告第五拾貳號　明治十五年十月廿七日

明治十年一月第七號布告賣藥規則中左ノ通追加シ來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

第二條ヘ但書追加

但免許ヲ受ケタル者二ケ所以上ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十六條中右鑑札料云々ノ項ヘ但書追加

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ税金幷鑑札料ヲ納ムヘシ

右奉　勅旨布告候事

○賣藥印紙税規則

○太政官布告第五拾壹號　明治十五年十月廿七日

賣藥印紙税則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

賣藥印紙税規則

第一條　賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

印紙税ノ割合

一定價壹錢迄	印税壹厘
一仝　貳錢迄	仝　貳厘
一仝　三錢迄	仝　三厘
一仝　五錢迄	仝　五厘
一仝　拾錢迄	仝　壹錢

以上總テ五錢毎ニ五厘ヲ增加ス

第二條　印紙種目ハ左ノ如シ

壹　厘	淡黑色
貳　厘	青　色
三　厘	黃　色
五　厘	茶褐色

壹錢　赭色
貳錢　綠色
三錢　濃青色
四錢　橙黃色
五錢　紫色
拾錢　深紅色

第三條　印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ

但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ

第四條　賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限リ賣捌クモノトス

第五條　營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條　請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍

ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

右奉　勅旨布告候事

（別紙印紙貼用雛形略ス）

○太政官布達第二十四號　明治十五年十一月十七日

本年十月第五十一号布告賣藥印紙稅規則施行ニ付テハ賣藥營業者ニ於テ必ス印紙ヲ貼用スヘキ筈ノ處該稅則施行以前既ニ請賣者又ハ行商者ニ渡シタル賣藥ハ此際ニ限リ請賣者又ハ行商者ニ於テ印紙ヲ貼用スルヿヲ得ヘシ

右布達候事

○煙草稅則

○太政官布告第六拾三號　明治十五年十二月廿七日

明治八年十月第百五拾號布告煙草稅則別紙ノ通改定シ來十六年七月一日ヨリ施行ス

但明治十年二月第拾四號布告第一項ハ廢止ス

右奉　勅旨布告候事

第一章　烟草營業

第一條　烟草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

烟草製造人

烟草仲買人

烟草小賣人

第二條　刻烟草又ハ卷烟草等ヲ製造スル者ヲ烟草製造人トス但賃銀ヲ受ケテ他ノ製造人ノ烟草ヲ製造スル者ハ此限ニ在ラス

第三條　未製造ノ烟草ヲ買入レ之ヲ製造人又ハ同業者ヘ賣渡シ及製造烟草ヲ買入レ之ヲ小賣人又ハ同業者ヘ賣渡ス者ヲ烟草仲買人トス

第四條　製造烟草ヲ自用者ヘ賣捌ク者ヲ烟草小賣人トス

第二章　營業鑑札

第五條　烟草營業者ハ管轄廳ヘ願出營業鑑札ヲ受ク可シ

但製造仲買及小賣ヲ兼業スル者ハ各其營業鑑札ヲ受ク可シ

第六條　烟草營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲ストキハ管轄廳ニ願出仕入又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帶ス可シ

第七條　烟草營業者ハ鑑札ヲ受クルトキ左ノ通鑑札料ヲ納ム可シ

烟草營業鑑札料　壹枚ニ付金貳拾錢

烟草仕入鑑札料　壹枚ニ付金拾錢

烟草出賣鑑札料　壹枚ニ付金拾錢

第八條　鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セントキハ之ヲ管轄廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フ可シ但前條ノ通鑑札料ヲ納ム可シ

第九條　營業人廢業スルトキハ管轄廳ヘ届出鑑札ヲ還納ス可シ

第十條　鑑札ハ貸借賣買及讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三章　營業稅

第十一條　烟草營業者ハ左ノ通營業稅ヲ納ム可シ但兼業スル者ハ各其營業稅ヲ納ム可シ

烟草製造營業稅　壹個年　金拾五圓

烟草仲買營業稅　壹個年　金拾五圓

烟草小賣營業稅　壹個年　金五圓

第十二條　煙草營業稅ハ年々兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限管轄廳ニ納ム可シ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受ル節其半年分ノ營業稅ヲ納ム可シ

第四章　印稅

第十三條　煙草製造人刻煙草ヲ製造スルトキハ左ノ量目ニ從ヒ玉造紙包又ハ箱詰ニ裝置シ相當ノ印紙ヲ用フ可シ

量目	印税 卸賣定價百匁ニ付二十五錢未滿ノ分	同 卸賣定價百匁ニ付二十五錢以上五拾錢未滿ノ分	同 卸賣定價百匁ニ付五拾錢以上ノ分
五匁	二厘	三厘	四厘
十匁	四厘	六厘	八厘
十五匁	六厘	九厘	一錢二厘
廿匁	八厘	一錢二厘	一錢六厘
三十匁	一錢二厘	一錢八厘	二錢四厘
五十匁	二錢	三錢	四錢
百匁	四錢	六錢	八錢

第十四條　刻煙草ヲ玉造ニ爲ストキハ帶印紙ヲ以テ結束シ其封緘ノ箇所及印紙ノ彩紋ヘカケ製造人ノ印章ヲ以テ消印シ箱詰又ハ紙包ハ封緘ノ要部ニ印紙ヲ貼用シ製造人ノ印章ヲ以テ之ニ消印ス可シ

第十五條　刻煙草ヲ五匁以下崩シ賣ニ爲ストキハ二厘ノ帶印紙ヲ以テ結束ス可シ

第十六條　刻煙草ヲ玉造又ハ崩シ賣ニ爲ストキハ帶印紙ノ外他ノ紙類ヲ以テ之ヲ結束スルコトヲ得ス

第十七條　外國ヘ輸出スル煙草ニ限リ輸出ノ節税關ニ於テ戻税トシテ印税相當ノ金額ヲ輸出人ヘ下付ス可シ

第十八條　煙草印紙ノ種類價格左ノ如シ

帶印紙	黑色	一枚	二厘
同	淡赭色	同	三厘
同	黃色	同	四厘
同	赭色	同	六厘
同	萌黃色	同	八厘
同	淡青色	同	九厘
同	茶褐色	同	一錢二厘
同	淡紅色	同	一錢六厘
同	桔梗色	同	一錢八厘
同	橙黃色	同	二錢
同	老綠色	同	二錢四厘
同	濃青色	同	三錢
同	黃綠色	同	四錢

同　紫色　六錢
同　赤色　八錢

第十九條　煙草印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十條　印紙貼用ノ細則ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第五章　雜則

第二十一條　刻煙草ハ每個必ス製造人ノ氏名住所ヲ附記ス可シ

第二十二條　煙草營業者ハ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙草ヲ所持スルコトヲ得ス仕入出賣ヲ爲ス者モ亦同シ

第二十三條　煙草營業者ハ左ノ帳簿ヲ調製ス可シ其記載方ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

煙草製造人
煙草製造帳
煙草仲買人
煙草買入帳　煙草賣渡帳
煙草小賣人

煙草買入帳

第二十四條　煙草營業者ハ管轄廳ニ願出印紙買入鑑札ヲ受ケ印紙買入ヲ爲ス每ニ其鑑札ヲ携帶シ印紙賣捌人ニ示ス可シ

第二十五條　印紙賣捌人ハ印紙買受人ノ鑑札ヲ照査シテ其賣渡高及買受人ノ氏名住所賣渡ノ年月日ヲ帳簿ニ登記ス可シ

第二十六條　煙草營業者ハ煙草印紙ノ買受高其買入場所及使用高ヲ帳簿ニ登記ス可シ

第二十七條　煙草營業者ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ煙草買入高賣捌高製造高幷印紙買入高及六月三十日ノ煙草幷印紙ノ現在高ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出ツ可シ

第二十八條　印紙賣捌人ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ印紙賣捌高幷買受人ノ氏名住所ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出ツ可シ

第二十九條　煙草營業者ハ營業ノ標札ヲ戸外ニ掲出ス可シ但書式ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第三十條　印紙買入鑑札ハ貸借及賣買及讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條　未製造ノ煙草ハ煙草營業者ニアラサル者ニ賣渡スコトヲ得ス但貸與讓與

ノ名義ヲ以テスルモ亦同シ

第六章　檢査

第三十二條　煙草營業者ノ帳簿及其所持ノ煙草ハ主任官隨時之ヲ檢査ス可シ

第三十三條　檢査官吏ハ檢査ノ時官ノ印章ヲ携帶シ營業者ノ求ニ應シテ之ヲ示ス可シ

第七章　罰則

第三十四條　營業鑑札ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲ス者ハ營業稅逋脫ニ係ル金高三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ煙草ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

第三十五條　煙草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙草ヲ所持シ又ハ賣渡シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其賣渡代價ヲ追徵ス之ヲ貸與讓與シタル者モ同ク其罪ヲ論ス

第三十六條　帳簿ノ登記ヲ詐ヲ脫稅ヲ謀リ若クハ脫稅ノ便ヲ與ヘタル者又ハ届書ニ詐僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條　煙草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙草ヲ買受タル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス之ヲ借受讓受ケタル者モ同ク其罪ヲ論ス

第三十八條　第六條第十四條第十五條第二十一條第二十四條ニ違犯シタル者及第二十三條ニ違犯シテ帳簿ノ調製ヲ怠ル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ

係ル煙草ハ之ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

ニ處シ仍ホ其印紙ヲ沒收ス之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條　未製造ノ煙草ヲ煙草營業者ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條　第十三條ノ煙草裝置區分ニ違フ者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第四十二條　鑑札ヲ賣買貸借又ハ讓渡シタル者及第二十五條第二十六條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條　煙草自用者ニシテ未製造ノ煙草又ハ無印紙ノ刻煙草ヲ買受ケタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十四條　第八條第九條第二十七條第二十八條ノ届出ヲ怠リタル者及第二十九條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十五條　第二十條第二十三條第二十九條ニ依リ定メタル布達ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十六條　此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十七條　煙草營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○酒造稅則

○太政官布告第十七号　明治十五年三月廿五日

明治十三年九月第四十号布告酒造稅則中左ノ通加除更正ス

第二條ノ内　第二類蒸溜酒ノ割註「燒酎」ノ下ニ「酒精再溜酒類」ノ六字ヲ加入ス

第五條　刪除

第九條ノ内　第一期第二期更正

第一期　四月三十日限

十月一日ヨリ二月中檢査濟石數ニ係ル稅額ノ半數

第二期　七月三十一日限

三月一日ヨリ六月中檢査濟石數ニ係ル稅額ノ半數

第二十一條　但書增加

但事故アリテ酒もとノ不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限リ賣渡スハ此限ニアラス

第三十二條　但書刪除

右奉　勅旨布告候事

○太政官布告第六拾壹號　明治十五年十二月二十七日

明治十三年九月第四拾號布告酒造稅則左ノ通改正追加ス

但第三條改正ハ明治十六年十月一日ヨリ施行ス

第三條

免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及造石稅ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ

酒造免許稅　酒造場一箇所ニ付　金三拾圓

酒類造石稅

一類壹石ニ付　金四圓

二類壹石ニ付　金五圓

三類壹石ニ付　金六圓

第四條二項三項

酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セス

清酒　百石

濁酒　拾石

一類清酒濁酒ヲ除ク　二類三類　五石

新ニ酒造營業ヲナサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ

第五條

酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

第十條二項

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管廳ヘ申出檢査ヲ受ケ現石數ニ付納稅スヘシ

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上兼許ノ者其一箇所以上ヲ廢シ尚存セル酒造場ヘ其酒類ヲ移ス時ハ管廳ヘ屆出且製成ノ上檢査ヲ受クヘシ

第二十二條

他ノ依托ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒造場ヲ貸スヲ許サス

第二十三條

檢査未濟ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス

檢査既濟ノ酒類ヘ檢査未濟ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス

第三十一條

酒類石數ノ檢査ヲ受ケスシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ追徵シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍金額ヲ科スヘシ

但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第三十二條

酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

第三十四條

第十四條又ハ第二十條ノ屆出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十五條

第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ

第二十條ヲ犯シテ檢査ヲ受ケサル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ尚ホ其器械ヲ沒收ス

第三十六條

第十條第二項第二十一條第二十二條第二十三條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

但第二十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス

第三十七條

此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラズ

第三十八條

酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

酒造稅則附則

第一條　自家用料ノ酒類（飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ及ヒ其他ノ用ニ供スルモノ）ヲ製造スル者ハ管廳ヘ屆出製造免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ムヘシ

第二條　免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條　自家用料ノ酒類ハ一家內ニ於テ一期製造高壹石（二種以上製造スル者ハ其總石數ヲ合算ス）ヲ超ユルヲ得ス若シ之ヲ超ユル時ハ總テ本則ニ從フヘシ

第四條　自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家ノ外ニ於テ之ヲ製造スルヲ得ス

第五條　自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第六條　自家用料ノ酒類ヲ製造スル者免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ申出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第七條　自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第八條　第一條第三條第四條第五條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

第九條　此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

右奉　勅旨布告候事

○醫麴營業稅則

○太政官布告第六十貳号　明治十五年十二月二十七日

明治十三年九月第四拾壹號布告醫麴營業稅則左ノ通リ追加ス

第五條二項

醫麴及ヒ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第十二條

醫麴營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣醫麴受賣酢造營業ヲ爲シ又ハ酒類醫麴ヲ除ク ヲ製造スルヲ許サス

第十三條

第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器

械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

第十四條

此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第十五條

醫麹營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

右奉　勅旨布告候事

○郵便條例

○太政官布告第五拾九號　明治十五年十二月十六日

郵便條例別冊ノ通制定シ明治十六年一月一日ヨリ施行ス

右奉　勅旨布告候事

郵便條例

郵便條例目次

第一章　郵便物
第二章　郵便稅
第三章　郵便切手封皮葉書帶紙
第四章　免稅郵便
第五章　書留郵便
第六章　郵便物遞送配達
第七章　別配達郵便
第八章　郵便私書函
第九章　留置郵便
第十章　貨幣封入郵便
第十一章　郵便沒書
第十二章　郵便爲替
第十三章　驛遞局貯金
第十四章　外國郵便
第十五章　罰則

郵便條例

第一章　郵便物

第一條　凡郵便物別ヲ四種ト爲ス

一　書狀
二　郵便葉書
三　毎月一回以上發行スル定時印刷物及其附錄
四　書籍、帳簿、各種ノ印刷物、寫眞、書畫、繪圖、罫紙、營業品ノ見本及雛形

第二條　何品ヲ問ハス此條例ニ抵觸セサルモノハ第一種郵便物トナスヲ得

第三條　封緘シタル郵便物ハ第一種郵便物トナスヘシ

第四條　第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合裝スルトキハ總テ第一種郵便物トナスヘシ

第五條　第二種便物左ニ記載シタル所爲アルトキハ第一種郵便物トナスヘシ

一截斷又ハ破却シタルモノ
一稅額印面ニ文字ヲ書シタルモノ
一稅額印面ニ郵便切手ヲ貼付シタルモノ
一紙配達又ハ返戻ノ爲ニスルモノヲ除ク其他ノ品ヲ貼付シタルモノ
一一葉ヲ折リ之ヲ全ク糊着シ又ハ數葉ヲ合セ之ヲ全ク糊着シタルモノ
一表面ニ音信文ヲ記載シタルモノ

第六條　第三種郵便物ハ其發行人ヨリ定時印刷物タルヲ證シテ驛遞總官ノ認可ヲ受ケ驛遞局認可ノ文字ヲ印刷スヘシ但其文字標題番號及發行ノ年月日ヲ見易カラシムヘシ

其附錄ハ其本紙ノ標題番號及發行ノ年月日ヲ印刷シ冊子トナサスシテ本紙ニ添付シ且本紙ノ重量ニ超過セサルモノニ限ルヘシ

第七條　第三種第四種郵便物ハ封緘セサルモノトス

第八條　第三種第四種郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一種郵便物トナスヘシ

第九條　營業品ノ見本及雛形ハ雙方又ハ一方營業者ト往復スルモノニ限ルヘシ

第十條　營業者ニアラサルモノヽ間ニ往復スル見本及雛形ハ第一種郵便物トナスヘシ

第十一條　異種ノ郵便物ヲ合裝スルトキハ總テ其種類中高額稅ヲ課スヘキ郵便物トナスヘシ但第四條ニ記載シタルモノハ此限ニアラス

第十二條　郵便物ノ重量ハ郵便切手封皮帶紙ノ重量ヲ合算スルモノトス

第十三條　第三種第四種郵便物營業品ノ見本及雛形ヲ除クハ一個ノ重量三百目ニ超過スヘカラス

第十四條　營業品ノ見本及雛形ハ一個ノ重量四十八匁ニ超過スヘカラス

第十五條　郵便物ノ大サハ曲尺ニテ長一尺二寸幅八寸厚五寸ニ超過スヘカラス

第十六條　左ニ記載シタルモノハ郵便物トナスヘカラス

一毒藥、劇藥、流動物、流動爆發燃燒腐敗シ易キ物、孕化スヘキ物、動物、植物、皮鋒刀

器、硝子器、陶器等ノ損傷シ易ク又他ノ郵便物ヲ損害スヘキ物品

一風俗ヲ害スヘキ文書、畫圖、寫眞及物品

一金銀、寶玉

一貨幣但第十章ノ規則ニ從フモノハ此限ニアラス

第二章　郵便税

第十七條　郵便税ハ郵便物ノ種類ニ從ヒ其額ヲ定ム

第一種郵便物　重量二匁毎ニ（二匁未滿亦同シ）　二錢

第二種郵便物　一葉　一錢

第三種郵便物　一號一個重量十六匁毎ニ（十六匁未滿亦同シ）　一錢

二號又ハ二個以上一束重量十六匁毎ニ（十六匁未滿亦同シ）　二錢

第四種郵便物　重量八匁毎ニ（八匁未滿亦同シ）　二錢

第十八條　郵便税ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス郵便封皮葉書帶紙ハ切手ヲ貼付シタルト同般ナリトス但驛遞總官ト約定アルモノハ此限ニアラス

第十九條　納税ニ用ヒタル郵便切手幷封皮葉書帶紙ノ税額印面ハ郵便局ニ於テ消印スヘシ

第二十條　郵便税ニ過納アルモ已ニ其税額印面ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス

第二十一條　未納税又ハ不足税ノ郵便物ハ受取人ヨリ其額ノ二倍ヲ徴收スヘシ

受取人其郵便物ヲ受取リタルトキハ其納税ヲ拒ムヘカラス

受取人其郵便物ヲ受取ラスシテ差出人ニ還付スルトキハ其差出人ヨリ其額三倍ヲ徴收スヘシ

第二十二條　未納税又ハ不足税ノ郵便物配達シ能ハス差出人ニ還付スルトキハ其額ノ二倍ヲ徴收スヘシ差立前ニ係ル未納税又ハ不足税ノ郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキ亦同シ

第二十三條　第十三條第十四條第十五條ニ背戻スル郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキハ未納税又ハ不足税ノ二倍ヲ徴收スヘシ

第二十四條　人民ヨリ官廳ニ差出ス郵便物ハ郵便税完納ニ限ルヘシ未納税又ハ不足税ノモノハ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徴收スヘシ

第二十五條　未納税又ハ不足税ヲ徴收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ未納又ハ不足ノ印ヲ捺シ其證トナスヘシ

第三章　郵便切手封皮葉書帶紙

第二十六條　郵便切手郵便封皮郵便葉書郵便帶紙ハ日本政府ニ於テ發行セシモノタル

ヘシ

第二十七條　郵便切手封皮葉書帶紙ハ郵便稅納ノ證トナシ又郵便切手ハ書留手數料幷別配達料納濟ノ證トナスモノトス

第二十八條　郵便封皮ヲ用ユルトキ其郵便物ノ重量ニ因テ稅額ニ不足ヲ生スルトキハ郵便切手ヲ以テ之ヲ補フヘシ

第二十九條　郵便封皮ノ價位ハ其印面ノ稅額ニ製造費ヲ加ヘタル額ヲ以テ驛遞總官之ヲ定ムヘシ

第三十條　郵便帶紙ハ第三種郵便物一號一箇ヲ以テ達スルモノニ用ユヘシ但重量十六匁以下ノモノニ限ルヘシ

第三十一條　郵便帶紙ハ第三種郵便物發行人若クハ賣捌人ノ請求ニ依リ驛遞局ニテ賣下シヘシ

第三十二條　郵便切手封皮葉書ヲ賣ルモノハ驛遞總官ノ免許ヲ受ケ郵便切手賣下所ノ標板ヲ揭クヘシ

第三十三條　郵便切手封皮葉書ハ郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ノ外ニ於テ賣買スヘカラス

第三十四條　郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ハ郵便切手封皮葉書ノ印面稅額ヨリ低

價ヲ以テ賣ルヘカラス

第三十五條　郵便封皮葉書帶紙ノ稅額印面ヲ切取リ郵便切手ニ代用スルモ其効用ヲ有セス

第三十六條　郵便切手幷封皮葉書帶紙ノ汚斑毀損捺印アルモノ及稅額印面不明瞭ナルモノハ其効用ヲ失フ然レ𪜈其未タ使用セサルモノニ限リ二人以上ノ證人ヲ立テ其原由ヲ明瞭ナラシムルトキハ驛遞局ニ於テ定價十分二減ニテ買戻スヘシ

第三十七條　驛遞局及一等郵便局ニ於テハ四枚以上聯續シタル郵便切手幷封皮葉書帶紙ヲ其所持人ノ請求ニ依リ定價十分一減ニテ買戻スヘシ

第四章　免稅郵便

第三十八條　郵便、郵便爲替及貯金ノ事務ニ關スル郵便物ハ其稅ヲ免除ス

第三十九條　免稅郵便物ハ驛遞局郵便局府縣廳府縣所屬廳郡區役所並以上各廳派出官吏相互ノ間又ハ之ト往復スルモノニ限ルヘシ

第四十條　免稅郵便物ハ表面ニ郵便事務爲替事務貯金事務ノ文字ヲ記載スヘシ

第四十一條　官廳ニ宛テ又ハ官廳ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名若クハ廳名課名ヲ記載シ派出官吏ニ宛テ又ハ派出官吏ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名ヲ記載スヘシ

第四十二條　人民ヨリ差出ス免稅郵便物ハ宿所氏名ヲ記載スヘシ

第四十三條　免税郵便物ニ他ノ音信文或ハ暗號隱語ヲ記載シ又ハ有税郵便物ヲ附シタルモノハ相當種類ノ郵便税ヲ徴収スヘシ

第五章　書留郵便

第四十四條　書留郵便物ハ郵便局ノ帳簿ニ登記シ遞送配達ノ受授ヲ證スルモノトス

第四十五條　書留手數料ハ郵便物ノ何種ニ拘ハラス六錢トス

第四十六條　書留郵便物ハ郵便税手數料共前納ニ限ルヘシ

第四十七條　書留手數料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第四十八條　書留郵便物ヲ差出ストキハ其表面ニ書留ト記載シ郵便局若シハ郵便受取所ニ於テ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ郵便局若シハ郵便受取所ノ印及主務者ノ印ヲ捺セル受取證書ヲ受領スヘシ

第四十九條　書留郵便物ノ配達ヲ受ケタルモノハ其差出人及受取人ノ氏名配達ノ年月日ヲ記シタル受取證書ニ調印スヘシ本人不在ナルトキハ其代人記名調印スヘシ

第五十條　免税郵便物ハ書留手數料ヲ納ムルニ及ハス

第六章　郵便物遞送配達

第五十一條　郵便物遞送配達ハ郵便局ニ於テ之ヲ管スルモノトス

第五十二條　郵便局ノ廢置ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五十三條　郵便物ハ其宛名ノ家ニ配達シ二名以上ニ宛タルモノハ其内ノ一名ニ配達スヘシ肩書寄宿所ノ類以下之ニ倣フアルモノハ其肩書ノ家ニ配達スヘシ

第五十四條　完納税郵便物宛名ノ家ニ於テハ其配達ヲ拒ムヘカラス免税郵便物亦同シ但市外別配達料艀船料貨幣遞送配達賃ニ追納アルモノハ此限ニアラス

第五十五條　未納税又ハ不足税ノ郵便物受取人ニ於テ其税ヲ納メサルトキハ之ヲ受取ルヲ得ス

第五十六條　郵便物ヲ開封シ又ハ其帶紙或ハ結束ヲ脱シ或ハ音信文ヲ讀過スルトキハ之ヲ受取リタルモノトナスヘシ但第百十五條ノ郵便物ハ此限ニアラス

第五十七條　郵便物配達ヲ受ケタル肩書ノ家ニ於テ其受取人移轉シタルトキハ直ニ之ヲ其配達人ニ還付スルカ或ハ其郵便物ニ加記又ハ附箋シ再ヒ郵便ニ出スヘシ但受取人ニ達スル爲メ其家ニ留メ置クモ日數三十日ニ過クヘカラス

第五十八條　其家ニ屬セサル郵便物ノ配達ヲ受ケタルトキハ其由ヲ附箋シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ

其郵便物ヲ誤テ開封シタルトキハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ

第五十九條　配達シ能ハス或ハ未納税又ハ不足税ヲ受取人ニ於テ納メサル郵便物ハ之ヲ其差出人ニ還付スヘシ但二名以上ヨリ差出シタルモノハ之ヲ其内ノ一名ニ還付スヘシ

第六十條　第十三條第十四條第十五條ニ背戻スル郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第六十一條　差立前ニ係ル郵便物ハ差出人ノ請求ニ依リ之ヲ還付スルヿアルヘシ

第六十二條　第四種郵便物ハ次便ヲ以テ遞送スルコトアルヘシ

第六十三條　遞送及集配ノ途中ニ係ル郵便物ハ其郵便物ノ受取人タリトモ受授スヘカラス

第六十四條　郵便局所在地ニ於テハ集配人ニ郵便物ノ差出方ヲ委托スヘカラス又集配人ハ其委托ヲ受クヘカラス

第六十五條　郵便物ハ差出人ノ爲メ郵便局ニ於テ之カ秤量ヲナサス

第六十六條　郵便物ノ損害紛失及其損害紛失又ハ遲達ヨリ生シタル損失ハ驛遞局之ヲ償フノ責ニ任セス

第六十七條　書狀ハ郵便局ヲ經由セサレハ之ヲ送達シ又ハ送達セシムヘカラス但左ニ記載シタルモノハ此限ニアラス

一送達料ヲ拂ハス臨時ニ親族朋友雇人ノ類ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ

一郵便ニ依ル能ハサル事故アリテ臨時ニ特使ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ

一貨物ト共ニ發スル無封添狀送狀

第六十八條　軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國各地ニ往復スル船車ノ所有主若クハ其代理者ハ驛遞局又ハ郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス

一第一種郵便物ハ一個一錢ニ超過セサル額

一第二種以下ノ郵便物ハ一個五厘ニ超過セサル額

第六十九條　郵便物運送ノ約定ヲ爲シタルモノ或ハ運送ノ托ヲ受ケタルモノハ其出發ノ日時ヲ定メ若クハ既定ノ日時ヲ變更スルトキハ速ニ之ヲ其地ノ郵便局ニ屆出ツヘシ

第七十條　時期ヲ定メテ郵便物運送ノ命ヲ受ケタルモノハ其期ヲ變更スヘカラス

第七十一條　郵便物ノ運送ヲ爲スモノハ其郵便物ヲ安全ニ保護スヘシ

第七十二條　郵便物ヲ積載セル船舶ハ到達地ニ於テ其郵便物ヲ陸揚セシ後ニアラサレハ他ノ積載セル貨物ヲ陸揚スヘカラス

第七十三條　郵便物配達又ハ還付ヲ受ケタルモノ郵便局ニ於テ調査ノ爲メ其郵便物ノ

封皮帶紙又ハ葉書ノ交付ヲ求メラルヽトキハ之ヲ拒ムヘカラス但郵便物切手貼付アルモノハ其儘交付スヘシ

第七章　別配達郵便

第七十四條　別配達郵便物ハ書留郵便ニ限ルモノニシテ通常配達ノ例ニ拘ハラス別ニ急速ノ配達ヲナスモノトス

第七十五條　別配達別テ二類ト爲ス

一市内郵便局所在地別配達

一市外郵便局未設地別配達

第七十六條　市内別配達料ハ東京京都及大坂ハ十錢其他ノ市内ハ六錢トス

第七十七條　市外別配達料ハ配達ノ郵便局ヨリ受取人ノ住所ニ至ル路程ニ應シ十八町毎ニ六錢トス十八町未満亦同シ

第七十八條　別配達ハ郵便税幷別配達料共前納ニ限ルヘシ

第七十九條　別配達料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第八十條　市外別配達ハ配達地ニ到リ路程ノ差違ニ因テ其料ニ不足ヲ生スルモ其料六錢以上納濟ノモノハ仍ホ別配達トシテ取扱ヒ受取人ヨリ其不足額ヲ徵收スヘシ

第八十一條　市外別配達料不足額ヲ徵收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ不足ノ印ヲ捺シ其證トナスヘシ

第八十二條　船舶ニ達スル別配達ハ其船舶ノ碇泊所ニ從ヒ別配達料ノ外相當ノ艀船料ヲ受取人ヨリ徵收スヘシ

第八十三條　市外別配達料不足額又ハ艀船料ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ルヲ得ス

其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額ヲ徵收スヘシ

第八十四條　別配達郵便物ヲ受取リタルモノハ市外別配達料不足額又ハ艀船料ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第八十五條　別配達ハ各郵便局ノ配達區域ニ拘ハラサルモノトス

第八十六條　甲郵便局所在地ニ達スルモノヲ乙郵便局ヨリ配達スルトキハ市外別配達トナスヘシ

第八十七條　市内別配達ハ其郵便物ノ表面ニ別配達ト記載スヘシ

第八十八條　市外別配達ハ其郵便物ノ表面ニ何地郵便局ヨリ別配達ト記載スヘシ若シ其郵便局ヲ定メ難キトキハ單ニ別配達トノミ記載スヘシ

第八十九條　別配達トノミ記載セルモノハ各郵便局ノ配達區域ニ從ヒ其地ノ郵便局ヨ

リ配達スヘシ

第九十條　別配達郵便物受取人移轉シ其移轉先ニ達スルトキハ別配達トセスシテ配達スヘシ

第九十一條　免稅郵便物ハ別配達料艀船料ヲ納ムルニ及ハス

第八章　郵便私書函

第九十二條　郵便私書函ハ郵便局ニ設置シ其開閉ニ供スル適當ノ鍵ヲ渡シ貸與スルモノトス

第九十三條　私書函ノ借受人ニ宛テタル郵便物ハ其住所ニ配達セス私書函ニ入置クヘシ

第九十四條　私書函貸與料ハ一ケ月金三圓以下ヲ以テ驛遞總官之ヲ定ムヘシ

第九十五條　私書函貸與期限ハ一ケ月以上トシ其貸與料ヲ前納スヘシ

第九十六條　私書函借受人ニ宛テタル別配達書留及未納稅不足稅ノ郵便物ハ私書函ニ入レスシテ其住所ニ配達スヘシ

第九十七條　私書函ハ二人以上又ハ二箇社以上ノ名ヲ以テ其一箇ヲ借受クルヲ得ス

第九十八條　私書函貸與ノ滿期ニ至ルトキハ速ニ其鍵ヲ郵便局ニ返納スヘシ之ヲ返納セサルトキハ前期ヲ繼テ借受ケタルモノトナスヘシ

第九章　留置郵便

第九十九條　留置郵便ハ表記地名ノ郵便局ニ留置キ受取人ヲ待テ交付スルモノトス

第百條　留置郵便物ハ其表面ニ何地郵便局留置ト記載スヘシ

第百一條　留置郵便物ヲ受取ルモノハ其受取人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ證スヘシ

第百二條　留置郵便物ハ郵便稅完納ニ限ルヘシ

第百三條　未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ヲ留置トナストキハ之ヲ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第百四條　留置期限ハ九十日ニ限ルヘシ

留置期限内ニ郵便物ヲ受取ラサルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第十章　貨幣封入郵便

第百五條　貨幣封入郵便物ハ驛遞總官ト約定アルモノヲシテ特別ノ方法ニ依リ之ヲ遞送配達セシムルモノトス

第百六條　貨幣封入郵便物ハ其重量ニ從ヒ第一種郵便物ノ稅ヲ前納シ別ニ封入ノ金額送達ノ路程ニ從ヒ貨幣遞送賃及配達賃ヲ通貨ニテ納ムヘシ但貨幣遞送賃ハ差出人ニ於テ前納シ郵便賃ハ受取人ヨリ納ムヘシ

第百七條　貨幣遞送賃及配達賃額ハ驛遞總官各郵便局ニ掲示スヘシ

第百八條　封入ノ金額ハ三十圓ニ超過スヘカラス

第百九條　封入ノ金額ハ其郵便物ノ表面ニ明記スヘシ

第百十條　貨幣封入郵便物ハ差出人ニ於テ同一ノ印判ヲ以テ四所以上封印ヲ捺スヘシ

第百十一條　同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ差出ス貨幣封入郵便物ハ一日一個ニ限ルヘシ

第百十二條　貨幣封入郵便物ハ其表記ノ金額及封印ヲ證トシテ受授スヘシ

第百十三條　貨幣封入郵便物ヲ差出ストキハ郵便局ニ設ケアル員數證書用紙ニ式ノ如ク記載シ其郵便物ノ封印ニ用ヒタル印判ヲ捺シ郵便物及貨幣遞送賃ト共ニ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ郵便局ノ印ヲ捺シ且主務者記名調印セル受取證書ヲ受領スヘシ

第百十四條　本人ノ封印ヲナシタル貨幣封入郵便物ヲ代人ヲ以テ差出シ員數證書ニ其代人ノ印ヲ捺ストキハ之ト同一ノ印ヲ其郵便物ニ四所以上添捺スヘシ

第百十五條　貨幣封入郵便ニアラサル郵便物中貨幣封入アルヲ郵便局ニテ見出シ又ハ推察スルトキハ之ヲ貨幣封入郵便トシテ取扱ヒ到達地ノ郵便局ニテ其受取人ヲ召喚シ或ハ遞送約定アルモノヲ以テ配達シ受取人ニ開封セシメ封入ノ金額ニ從ヒ差立地ヨリノ路程ニ應シタル貨幣遞送賃及ヒ配達賃ヲ受取人ヨリ徴収スヘシ

第百十六條　貨幣遞送賃又ハ配達賃ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ルヲ得ス

其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額并還付ノ貨幣遞送賃及配達賃ヲ徴収スヘシ

第百十七條　貨幣封入郵便物配達シ能ハス之ヲ差出人ニ還付スルトキハ更ニ相當ノ貨幣遞送賃及前後ノ配達賃ヲ徴収スヘシ

第百十八條　貨幣封入郵便物ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印税ヲ納ムルニ及ハス

第百十九條　貨幣封入郵便物ヲ受取リタルモノハ其貨幣遞送賃又ハ配達賃ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第百二十條　貨幣封入郵便物ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第百二十一條　郵便局主務者ノ疎虞懈怠ニ因リ貨幣封入郵便物ヲ失ヒタルトキハ主務者ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第百二十二條　貨幣封入郵便物ヲ遞送配達中失ヒタルトキハ强盜難其他災變ニ罹リ看守者保護シ能ハサル實證アルモノヽ外約定人ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第十一章　郵便沒書

第百二十三條　郵便沒書ハ配達シ能ハス又還付シ能ハサル郵便物ヲ驛遞局ニ沒入スル

モノトス

第百二十四條　驛遞總官ハ沒書ヲ開封シ其文書ニ就テ更ニ其配達又ハ還付ヲ試マシメ尙ホ配達又ハ還付シ能ハサルモノハ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第百二十五條　沒書ハ公告ノ日ヨリ一ケ年間驛遞局ニ保存スヘシ

沒書中貨幣或ハ諸證書又ハ有價ノ物品アルトキ驛遞局ノ帳簿ニ登記シ三ケ年間其沒書ヲ保存スヘシ但保存シ難キ物品ハ之ヲ賣却シ其代金ヲ領置スヘシ

第百二十六條　沒書ヲ一ケ年內ニ請求スルモノナキトキハ及沒書中ノ貨幣諸證書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三ケ年內ニ請求スルモノナキトキハ之ヲ沒入スヘシ

第百二十七條　沒書中ノ貨幣諸證書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三ケ年內ニ請求スルモノアルトキハ之ヲ還付シ諸證書ハ手數料ヲ徵收セスト雖ヒ貨幣或ハ有價ノ物品ハ其價額十分一ヲ手數料トシテ徵收スヘシ但其額ハ五圓ニ超過スルヲ得ス

第百二十八條　沒書ノ受取方ヲ請求スルモノハ其受取人又ハ差出人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ證スヘシ但驛遞局ニ於テ證人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第十二章　郵便爲替

第百二十九條　郵便爲替ハ驛遞總官ノ指定スル郵便局ニ於テ取扱フモノトス

第百三十條　爲替ヲ取扱フ郵便局ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第百三十一條　爲替證書一枚ノ金額ハ三十圓以下トシ端數ハ厘位ヲ限リトス

第百三十二條　爲替料ハ驛遞總官之ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ及爲替ヲ取扱フ郵便局ニ掲示スヘシ

第百三十三條　同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ宛テ同一ノ郵便局ニ於テ拂渡スヘキ爲替ノ振出ハ一日金額三十圓ニ超過スヘカラス

第百三十四條　爲替差出人ハ郵便局ニ設ケアル爲替願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替金及爲替料ト共ニ先ツ之ヲ主務者ニ交付シ後ニ爲替證書ヲ受領スヘシ

第百三十五條　爲替證書ハ其差出人ヨリ受取人ニ送付スヘシ

第百三十六條　爲替差出人ハ其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルヲ得但爲替料ハ返付セス

第百三十七條　爲替受取人其爲替證書ニ記載シタル拂渡局ニテ爲替金ヲ受取ルニ不便ナルトキ又爲替差出人其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルニ不便ナルトキハ驛遞局ニ其證書ヲ納付シテ書換ヲ請求シ更ニ爲替金ヲ受取ルニ便ナル局ニ宛テタル證書ヲ受クルヲ得

第百三十八條　爲替金ノ拂渡及返戻ハ其爲替證書ト引替ニ限ルヘシ但郵便局ニ於テ證人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第百三十九條　爲替受取人ハ其爲替證書ニ式ノ如ク記名調印スヘシ、爲替差出人爲替金ノ返戻ヲ受クトキ亦同シ

第百四十條　爲替報知書ニ記載セル諸件ヲ明瞭ニ答ヘ能ハサルモノハ其爲替金ヲ受取ルヲ得ス

第百四十一條　代人ヲ以テ爲替金ヲ受取ル者ハ其爲替證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第百三十九條ノ手續ヲナスヘシ

第百四十二條　官衙社寺會社ニ宛テタル爲替金ヲ受取ルトキハ其爲替證書ノ裏面ニ官衙社寺會社ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且之ヲ受取ル所屬人ハ第百三十九條ノ手續ヲナスヘシ

第百四十三條　官衙社寺會社ノ受取ルヘキ爲替金ニシテ其官衙社寺會社ノ名稱ヲ附記シ其所屬人ニ宛テタルトキ宛名人自ラ受取ル能ハス又第百四十一條ニ依ル能ハサルトキハ第百四十二條ニ依ルヲ得

第百四十四條　官衙社寺會社若クハ其所屬人ノ名ヲ以テ差出シタル爲替金ノ返戻ヲ受クルトキハ第百四十二條第百四十三條ノ手續ニ依ルヘシ

第百四十五條　爲替證書ノ効用ハ其證書ノ日附ヨリ百二十日ヲ限リトス

第百四十六條　効用ヲ失ヒタル爲替證書ハ差出人又ハ受取人ヨリ驛遞局ニ納付シ其書

換ヲ請求スヘシ

第百四十七條　爲替證書ノ効用ヲ失ヒタル日ヨリ二ケ年以内ニ其書換ヲ請求セサルトキハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

其公告ノ日ヨリ三ケ年内ニ爲替證書ノ書換ヲ請求スルトキハ其爲替金十分ノ一ヲ手數料トシテ徴收スヘシ其公告ノ日ヨリ三ケ年ヲ過ルモ尚ホ其爲替證書ノ書換ヲ請求セサルトキハ其爲替金ヲ收入スヘシ

第百四十八條　爲替證書ヲ失ヒタルトキ又ハ汚涎毀損シ判明ナラサルトキハ差出人ニ於テ證人ヲ立テ驛遞局ニ其事由ヲ證明シ更ニ再度ノ證書ヲ請求スヘシ

第百四十九條　爲替金ヲ返戻シ又ハ證書ヲ書換ヘ或ハ再度ノ證書ヲ交付スルハ其原證書ニ對スル報知書ヲ返戻シタル後ニ限ルヘシ

第百五十條　爲替證書ノ書換又ハ再度ノ證書ヲ請求スルトキハ更ニ相當ノ爲替料ヲ納ムヘシ但爲替遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ更ニ爲替料ヲ納ムルニ及ハス爲替證書ノ書換及再度ノ證書ヲ同時ニ請求スルモ兩樣ノ爲替料ヲ納ムルニ及ハス

第百五十一條　再度ノ爲替證書ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル爲替證書ヲ見出シタルトキハ之ヲ驛遞局ニ納付スヘシ

第百五十二條　爲替資金ノ都合ニ因リ爲替金ノ渡方順延スルヿアルヘシ

第百五十三條　爲替証書又ハ報知書ニ失誤アルカ或ハ其報知書未達ノトキハ爲替金ノ拂渡ヲ延引スヘシ

第百五十四條　爲替金ノ受渡ニ屬スル証書ハ証券印税ヲ納ムルニ及ハス

第百五十五條　郵便爲替ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第百五十六條　此章ノ規則ニ從ヒ爲替金ヲ渡シタル後ハ其渡方ニ就キ異議ヲ唱フルモ驛遞局ハ其責ニ任セス

第十三章　驛遞局貯金

第百五十七條　驛遞局貯金ハ驛遞總官ノ指定スル貯金預所ニ於テ取扱フモノトス

第百五十八條　貯金預所ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第百五十九條　一人一度ノ預ケ金額ハ拾錢以上トシ端數ハ厘位ヲ限リトス

一日ノ預ケ金額ハ五拾圓以下トス

第百六十條　一度ニ五拾圓以上ヲ預ケントスルモノハ其都度貯金預所ニ設ケアル願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ驛遞總官ノ認可ヲ請フヘシ

第百六十一條　貯金ニハ利子ヲ付ス其利子ノ割合ハ驛遞總官之ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ且貯金預所ニ掲示スヘシ但十錢未滿ノ端金ニハ利子ヲ付セス

第百六十二條　貯金ヨリ生シタル利子ハ毎年六月十二月ニ於テ之ヲ元金ニ加ヘ驛遞局ノ原簿ニ登記スヘシ

第百六十三條　貯金ハ預リタル月ト拂戻ス月ハ利子ヲ付セス但驛遞局ヨリ拂戻証書ヲ發シタル月ヲ以テ拂戻月トナスヘシ

第百六十四條　貯金ヲ拂戻ストキ厘位未滿ノ端數ハ切捨ツヘシ

第百六十五條　始テ預ケ金ヲナスモノハ貯金預所ニ設ケアル預ケ願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ之ヲ其貯金預所ニ出スヘシ但印判ヲ所持セサルモノハ引受人ヲ立ツヘシ

第百六十六條　貯金預ケ人ハ貯金預所ニ於テ貯金通帳ヲ受領シ其表紙ニ式ノ如ク記載調印シ此通帳ヲ預ケ金ヲ爲ス毎ニ預ケ金ト共ニ貯金預所ノ主務者ニ交付シ預ケ金ノ記入ヲ受ケ其通帳ヲ所持スヘシ

第百六十七條　貯金通帳ハ預ケ金受授ノ証トナスヘシ

第百六十八條　貯金預所ニ於テ預ケ金ヲ受取ルトキハ通帳ニ其金額及年月日ヲ記入シ貯金預所ノ印ヲ捺シ且主務者記名調印スヘシ

第百六十九條　一ノ貯金預所ヨリ受領シタル通帳ヲ以テ何レノ貯金預所ニモ預ケ金ヲナスヲ得

第百七十條　既ニ貯金通帳ヲ受領シ所持セルモノハ何レノ貯金預所ニ於テモ別ノ通帳

ヲ受領スルヲ得ス

第百七十一條　貯金通帳金額記載ノ部餘白ナキニ至リ更ニ通帳ヲ要スルトキハ驛遞局ニ其通帳ヲ差出シ再度ノ通帳ヲ請求スヘシ

第百七十二條　貯金預ケ人ハ滿六ケ月毎ニ驛遞局ニ貯金通帳ヲ差出シ原簿照合及利子記入ヲ受クヘシ

第百七十三條　預ケ金ヲナストキハ驛遞局ノ原簿ニ登記シ且貯金領收通知書ヲ其預ケ人ニ送達スヘシ

第百七十四條　貯金預ケ人ハ預ケ金ヲナシタル日ヨリ左ノ期日內ニ貯金領收通知書ヲ到達セサルトキハ其期日ヨリ十五日內又到達スルモ記載ノ金額幷年月日ニ相違アルトキハ到達ノ日ヨリ十五日內ニ驛遞總官ニ宛テ其申告書ヲ出スヘシ但申告書ハ郵便局ニ出シ其受取証書ヲ受領スヘシ

一東京　十日
一東京ヨリ百里未滿　三十日
一東京ヨリ百里以外　六十日

第百七十五條　第百七十四條ノ申告書ヲ出サヽルトキハ其預ケ金額驛遞局ノ原簿ニ登記ナキカ或ハ原簿登記ノ金額年月日ト其預ケタル金額年月日ト符合セサルモ驛遞局

ハ原簿ニ登記シタルモノヽ外其責ニ任セス

第百七十六條　貯金預ケ人ハ何レノ貯金預所ニ於テモ其貯金全額若クハ幾分ノ拂戻ヲ請求スルヲ得但未タ元金ニ加ヘサル利子ハ貯金ノ全額ヲ拂戻ストキニアラサレハ之ヲ受取ルヲ得ス

第百七十七條　貯金拂戻願人ハ貯金預所ニ設ケアル拂戻願書用紙ニ金額其他式ノ如ク記載調印シ通帳ヲ添ヘ貯金預所ヲ經由シテ驛遞局ニ出スヘシ但貯金預所ヨリ通帳ノ受取証書ヲ受領スヘシ

第百七十八條　第百七十七條ノ拂戻願書及通帳ヲ驛遞局ニ於テ領收シタルトキハ貯金拂戻証書ヲ拂戻願人ニ送達スヘシ

第百七十九條　貯金ノ全額ヲ拂戻ストキハ通帳ヲ返付セス又其幾分ヲ拂戻ストキハ驛遞局ニ於テ其通帳ニ拂戻金額及年月日ヲ記載シ官印ヲ捺シ且主務者記名調印シ貯金預所ヲ經テ之ヲ返付スヘシ

第百八十條　貯金拂戻願人ハ拂戻証書ニ式ノ如ク記名調印シ貯金預所ニ交付シ拂戻金ヲ受取ルヘシ

第百八十一條　代人ヲ以テ拂戻金ヲ受取ルモノハ拂戻証書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第百八十條ノ手續ヲナスヘシ

第百八十二條　拂戻金ハ其拂戻証書ノ日附ヨリ左ノ期日内ニ受取ルヘシ期日ヲ失スルトキハ更ニ驛遞局ニ其証書ノ書換ヲ請求スヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ此限ニアラス

一東京　十五日
一東京ヨリ百里未滿　廿五日
一東京ヨリ百里以外　四十日

第百八十三條　貯金預ケ人死亡シタルトキハ其相續人ニ於テ証人ヲ立テ相續人タルヲ証スル書面ヲ出シ且其相續人ハ第百七十七條ノ手續ヲナシ貯金拂戻ヲ請求スヘシ

第百八十四條　預ケ金ヲナストキ引受人ヲ立ツルモノハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ氏名ヲ記シ其引受人亦記名調印スヘシ

第百八十五條　社寺會社ノ名ヲ以テ預ケ金ヲナストキハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ社寺會社ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且擔當者一名記名調印スヘシ

第百八十六條　二人以上共同シテ預ケ金ヲナストキハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ其總代人一名記名調印シ且共同者中ノ一名記名加印スヘシ

第百八十七條　社寺會社及共同ノ貯金ハ其社寺會社若クハ其總代人ヲ以テ一個ノ預ケ人ト看做スヘシ

第百八十八條　貯金預ケ人氏名變換改印轉籍轉住スルトキハ其届書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百八十九條　貯金預ケ人ノ引受人社寺會社ノ貯金擔當者共同貯金ノ加印者氏名變換改印轉籍轉住スルトキハ貯金預ケ人連印引受人アル貯金預ケノ届書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九十條　貯金預ケ人ノ引受人社寺會社ノ貯金擔當者共同貯金ノ加印者變更アルトキハ後任者及貯金預ケ人連印引受人アル貯金預ケノ届書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九十一條　共同貯金ノ總代人ハ氏名ノミ連記

印ノ願書ヲ驛遞局ニ出スヘシ但前任ノ總代人連印スル能ハサルトキハ証人ヲ立ツヘシ

第百九十二條　貯金預ケ人其引受人ヲ解カントスルトキハ印鑑ヲ添ヘ其引受人連印ノ届書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九十三條　貯金通帳ヲ失ヒタルトキハ速ニ其届書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九十四條　貯金通帳又ハ貯金拂戻証書ヲ失ヒタルトキ或ハ汚斑毀損シテ判明ナラサルトキハ証人ヲ立テ驛遞局ニ其事由ヲ証明シ再度ノ通帳又ハ拂戻証書ヲ請求スヘシ

第百九十五條　貯金通帳ヲ失ヒタルトキハ再度ノ通帳ヲ發シタル日ヨリ九十日間其貯金ノ拂戻ヲ請求スルヲ得ス

第百九十六條　再度ノ貯金通帳ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル通帳ヲ見出シタルトキハ舊通帳ヲ驛遞局ニ納付スヘシ

第百九十七條　驛遞局ニ貯金通帳ヲ差出シ又ハ再度ノ通帳或ハ貯金拂戻ヲ請求シタル場合ニ於テ第百七十四條ニ記載シタル期日內ニ通帳返付ナキカ又ハ再度ノ通帳或ハ拂戻証書到達セサルトキハ驛遞總官ニ宛テ其申告書ヲ出スヘシ

第百九十八條　貯金通帳ハ賣買讓與又ハ書入質入スルヲ許サス

第百九十九條　驛遞局又ハ貯金預所ニテ証人ヲ要スルトキハ貯金預ケ人之ヲ拒ムヘカラス

第二百條　貯金ノ受渡ニ屬スル証書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

第二百一條　貯金拂戻方延滯シ爲メニ預ケ人ノ損失ヲ生スルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第二百二條　此章ノ規則ニ從ヒ貯金ヲ拂戻シタル後ハ其拂戻方ニ就キ異議ヲ唱フルモ驛遞局ハ其責ニ任セス

第十四章　外國郵便

第二百三條　凡外國ニ差立ル郵便物別ヲ五項ト爲ス

一　書狀

二　郵便葉書

三　書籍、各種ノ印刷物、寫眞、畫圖

四　詞訟上及商用上ノ書類

五　商品ノ見本

第二百四條　何品ヲ問ハス此章ノ規則ニ抵觸セサルモノハ第一項郵便物トナスヲ得

第二百五條　第三項第四項第五項郵便物ハ封緘セサルモノトス之ヲ封緘スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

第二百六條　第三項第四項第五項郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

第二百七條　第三項第四項第五項郵便物ヲ第一項郵便物ト合裝スルトキハ總テ第一項郵便物トナスヘシ

第二百八條　第三項第四項郵便物ハ一個ノ重量二「キログラム」凡五百三十二匁四分零六毛ニ超過スヘカラス

第二百九條　第五項郵便物ノ大サハ長二十「サンチメートル」凡曲尺六寸六分六厘、幅十「サンチ

メートル」凡三寸三分三厘　厚五ミリメートル」凡一寸六分五厘ニ超過スヘカラス　又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六

第二百十條　第三項第四項第五項郵便物ヲ合裝スルトキ其重量ハ第二百八條ノ制限ニ超過スヘカラス但五項郵便物ノ大サ及重量ハ第二百九條ニ據ルヘシ

第二百十一條　第二項郵便物ハ萬國郵便聯合業書ヲ用ユヘシ

第二百十二條　第二項郵便物第五條ニ記載シタル所爲アルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第二百十三條　第五項郵便物ハ賣價ヲ付セサルモノニ限ルヘシ

第二百十四條　左ニ記載スルモノハ外國ニ差立ル郵便物トナスヘカラス

一貨幣又ハ高價ノ物品

一關稅ヲ拂フヘキ物品

一第十六條第一項第二項及第三項ニ記載シタルモノ

第二百十五條　郵便聯約國ニ差立ル第三項第四項第五項郵便物ハ少クモ其郵便稅ノ一部分ヲ前納シタルモノニ限ルヘシ

第二百十六條　郵便聯約國外ニ差立ル郵便物ハ總テ郵便稅完納ニ限ルヘシ但到達地ニ於テ課スヘキ郵便稅ハ此限ニアラス

第二百十七條　第二百八條第二百九條第二百十條第二百十三條第二百十五條第二百十六條ニ背戻スル郵便物ハ差出人ニ還付シ未納稅又ハ不足稅ハ第十七條ノ割合ニ從ヒ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二百十八條　書留郵便物ハ郵便稅書留手數料トモ前納ニ限ルヘシ

第二百十九條　郵便聯約國ニ差立ル書留郵便物ハ受取人ノ受取證書返送ヲ望ムヲ得之ヲ望ムトキハ郵便稅書留手數料ノ外增手數料ヲ前納スヘシ

第二百二十條　郵便稅書留手數料及增手數料ハ日本國郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第二百二十一條　郵便稅書留手數料增手數料ノ割合郵便物ヲ差立テ得ヘキ國名及ヒ郵便爲替小包郵便ニ關スル事項ハ驛遞總官公告スヘシ

第二百二十二條　書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル國ニ差立ル書留郵便物ヲ內國又ハ同上約定アル外國ニテ遞送中紛失シタルトキハ天災ニ因ルモノヽ外之ヲ紛失シタル國ノ驛遞局ニ於テ差出人又ハ差出人ノ望ニ依リ受取人ニ五十「フランク」一「フランク」ハ凡金貨二拾錢若クハ他ノ貨幣ニテ同額ノ償金ヲ拂フヘシ

書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル外國ヨリ內國ニ到達スル書留郵便物ヲ內國遞送中紛失シタルトキ亦同シ

第二百二十三條　軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國ヲ發シ外國ニ航スル船舶ノ所有主若シクハ其代理者ハ驛遞局又ハ郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス

一第一項郵便物ハ一個三錢ニ超過セサル額

一第二項以下ノ郵便物ハ一個一錢ニ超過セサル額

第二百二十四條　第三十六條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條ノ規則ハ此章ノ郵便業書ニ亦適用スヘシ

第二百二十五條　第十二條第十九條第二十一條第一項第三項第二十二條第二十五條第四十四條第四十八條第五十一條第五十九條第六十一條第六十三條第六十四條第六十六條第二百二十二條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第百條及第十一章ノ規則ハ内國ヨリ外國ニ差立ル郵便物ニ亦適用スヘシ

第二百二十六條　第二十一條第一項第二項第二十五條第四十四條第四十九條第五十一條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第六十三條第六十六條第二百二十二條第七十三條第九十九條第百條第百一條第百四條第一項及第八章ノ規則ハ外國ヨリ内國ニ到達スル郵便物ニ亦適用スヘシ

第十五章　罰則

第二百二十七條　第十六條第三十三條第三十四條第六十九條第七十條第二百十四條ヲ犯シタルモノハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十八條　第五十四條第六十三條第六十四條ヲ犯シタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百二十九條　第五十七條第五十八條ヲ犯シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十條　第六十七條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

遞送配達ヲ以テ營業トナスモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十一條　第六十八條第二百二十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條　懈怠故意ヲ問ハス第七十一條第七十二條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十三條　郵便封皮葉書帶紙ヲ僞造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタルモノハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條　已レニ屬セサル郵便物ヲ開封シ又ハ毀損汚穢シ或ハ私用賣却抑留隱

匿抛棄シ若クハ之ヲ受取人ニアラサルモノニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏
故買シ若クハ牙保ヲナシタルモノハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十
圓以下ノ罰金ヲ附加ス
郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シタルトキハ官吏備人約定人ヲ論セス本刑ニ一等ヲ加
フ

第二百三十五條　郵便事務ヲ奉スルモノ自己若クハ他人ノ爲メニスルヲ問ハス郵便物
ヲ不當ノ方位ニ遞送シタルトキハ第二百三十四條第一項ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十六條　疎虞懈怠ニ因テ郵便物ヲ失ヒタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下
ノ科料ニ處ス
書留郵便ニ係ルトキハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十七條　有税ヲ以テ免税トシ其他詐僞ヲ以テ郵便税ヲ免レタルモノハ二月以
上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シ又ハ情ヲ知テ其郵便物ヲ遞送配達シ或ハ自己ノ受ケ
タル郵便物ノ未納税又ハ不足税ヲ免レタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十八條　不良ノ事ヲ行ハシカ爲メ郵便ヲ用ヒタルモノハ十一日以上一年以下
ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

行フ處不良ノ罪重キモノハ重キニ從テ論ス

第二百三十九條　驛遞總官ノ認可ヲ得スシテ郵便物ニ驛遞局認可ノ文字ヲ用ヒタルモ
ノハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
郵便物運送ニ使用セサル船車ニ郵便ノ記章又ハ郵便ノ文字ヲ用ヒタルモノ亦同シ

第二百四十條　未納税又ハ不足税及ヒ別配達料艀船料貨幣遞送配達賃私書函貸與料ヲ
五日内ニ納メサルモノハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス
郵便事務ヲ奉スルモノ徴收スヘキ郵便税別配達料艀船料貨幣遞送配達賃私書函貸與
料ヲ徴收セサルトキ亦同シ

第二百四十一條　郵便事務ヲ奉スルモノ郵便物ニ貼用セル郵便切手ヲ剝取ルトキハ一
月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其未タ消印ヲナサヽル切手ヲ剝取ルモノハ刑法竊盜ノ本條ニ照シテ處斷ス

第二百四十二條　郵便爲替事務ヲ奉スルモノ郵便爲替金及爲替料ヲ領收セスシテ爲替
證書ヲ振出シ又ハ爲替證書ヲ受取ラスシテ爲替金ヲ渡シタルトキハ二月以上四年以
下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
驛遞局貯金ノ事務ヲ奉スルモノ預ケ金ヲ領收セスシテ貯金通帳ニ預ケ金ノ記入ヲナ
シ又ハ拂戻證書ヲ受取ラスシテ貯金ヲ拂渡シタルトキ亦同シ

第二百四十三條　郵便事務ヲ奉スルモノ諸般ノ計數ヲ僞ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條　郵便物ニ押用セル印面ヲ變換シタルモノハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十五條　郵便配達人配達先ニ於テ謝儀ヲ要求シタルトキハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百四十六條　郵便函郵便行囊其他郵便ノ器械ヲ毀損汚穢シタルモノハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十七條　渡船人郵便物ノ渡津ヲ怠慢遲緩シタルトキハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百四十八條　第二百三十三條第二百三十七條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百四十九條　第二百三十條第二百三十七條第二百三十七條第二百四十一條第二百四十二條第二百四十三條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第二百五十條　本章罰則ノ外刑法ニ正條アル者ハ刑法ニ據テ處斷ス

○日本坑法

○太政官布告第四十九号　明治十四年九月二十二日

明治六年七月第二百五拾九号布告日本坑法第八章中左ノ通改正追加候條此旨布告候事

第三十一

第一項中「前一ケ年分ヲ鑛山寮ヘ納ムヘシ」トアルヲ「其年一ケ年分ヲ前納スヘシ」ト改ム

同項結尾ニ「但怠納者ハ借區劵ヲ取揚クヘシ」ヲ追加ス

第四項「借區初年ノ區稅ハ月割ニテ納ムヘシ」ト「借區初年ノ區稅ハ月割ヲ以テ借區劵下付ノ節前納スヘシ」ト改ム

○太政官布告第三拾八號　明治十五年八月九日

明治六年七月第貳百五拾九號布告日本坑法第三章中第九初項ヘ左ノ但書ヲ追加ス

但石炭坑ノ借區ハ壹萬坪以上ニ限ルヘシ

右奉　勅旨布告候事

○船稅規則

○太政官布告第拾三號　明治十六年四月十七日

船稅規則別冊ノ通制定シ明治十六年七月一日ヨリ施行ス但船稅ニ關スル從前ノ布告布

達ハ廢止ス

右奉　勅旨布告候事

船舶規則

第一章　鑑札　稅率　免稅

第一條　凡ソ船舶ハ此規則ニ依リ課稅スル者トス

第二條　船舶所有主ハ其船舶定繫場ヲ定メ定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ヲ乞フヘシ

第三條　新規造船シタル者其造船場所在ノ府縣管内ニ定繫場ヲ定メサル時ハ該廳ニ願出檢査ヲ受ケ假鑑札ヲ乞ヒ定繫場ニ回漕ノ上其地方廳ニ願出本鑑札ト引換ヲ乞フヘシ

第四條　船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ增減ヲ生スル時ハ其定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第五條　船舶ヲ賣買讓與シタル者ハ双方連署ノ上買受讓受主ノ定ムル定繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第六條　船舶ノ稅率ハ左ノ如シ

西洋形蒸氣船　百噸ニ付一年金拾五圓

同　風帆船　同　金拾圓

日本形船積石五拾石以上　百石ニ付同　金貳圓

同　積石五拾石未滿　長　自舳梁　至艫梁　三間迄ハ一年金三拾錢

解漁船小廻船積石ニ拘ラス　但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金拾五錢ヲ增加ス

遊船　長　自舳梁　至艫梁　三間迄ハ一年金五拾錢

但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金貳拾五錢ヲ增加ス

第七條　本鑑札又ハ假鑑札ハ航行若クハ回漕ノ時之ヲ本船ニ所持スヘシ

但日本形積石五拾石未滿ノ船並解漁船小廻船遊船ノ本鑑札ハ其船ニ釘付スヘシ

第八條　解船破船又ハ水火盜難等ニ因リ船舶ヲ失ヒタル者ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ屆出鑑札ヲ還納スヘシ

第九條　鑑札ヲ亡失毀損シタル時或ハ改名代替ノ時或ハ船號ヲ改メ若クハ定繫場ヲ變換シタル時ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ再渡若クハ引換ヲ乞フヘシ

第十條　左ニ掲クル船舶ハ其稅ヲ免除ス所有主ハ地方廳ニ屆出免稅ノ烙印ヲ乞フヘシ

倉庫船

水田ノ耕作ニ用フル船

氷災ノ爲メ陸地ニ備ヘ置ク船
橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用フル船
船橋ノ組成ニ用フル船
航海中本船ニ揚ケ置ク傳馬船「バッテーラ」船ノ類

第二章　納稅

第十一條　稅金ハ一年ヲ二期ニ分チ一月一日七月一日現在ノ船舶ヨリ徵收スル者トス
其前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ定繫場所在ノ地方廳ニ
上納スヘシ

第十二條　新規造船シタル者ハ鑑札ヲ受クル時該期ニ係ル稅金ヲ上納スヘシ

第十三條　船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ增減ヲ生シタル時ハ次期ヨリ其積量又ハ間
數ニ隨ヒ稅金ヲ納ムヘシ

第十四條　他管下ニ定繫場ヲ定ムル者ハ該地ニ代人ヲ定メ連署ノ上其定繫場所在ノ地
方廳ニ屆出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十五條　本籍管內ニ定繫場ヲ定メタル者不在ノ時ハ代人ヲ定メ其地方廳ニ屆出納稅
ヲ辨セシムヘシ

第十六條　假鑑札ヲ受ケタル船舶定繫場ニ回漕中納稅期限ニ係ル時ハ豫メ定繫場所在

ノ地ニ代人ヲ定メ其地方廳ニ屆出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十七條　此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ル者ハ處罰ノ後其稅金ヲ追徵ス

第三章　罰則

第十八條　此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ル者ハ其脫稅高五倍ノ科料若クハ罰金ニ處ス

第十九條　免稅船ヲ有稅船ノ用ニ充テタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及第十
條ノ免稅船ニ烙印ヲ受サル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條　此規則ニ依リ罰金若クハ科料ニ處スル者ハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加
重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第七十六條ノ場合ハ此限ニアラス

○西洋形船々長運轉手機關手免狀規則

○太政官布告第七十五号　明治十四年九月十三日

西洋形船々長運轉手機關手免狀規則別冊之通改定來十五年一月一日ヨリ施行シ九年六月
第八十貳号同年六月第九十四号同年十二月第百五十三号同年十二月第百五十七号十三年十二月第
五十八号十四年二月第十三号同年三月第十八号布告ハ同日ヨリ都テ之ヲ廢止ス

右奉　勅旨布告候事

西洋形船々長運轉手機關手免狀規則

此規則ハ海軍諸艦ニ關セサルモノトス

此規則中內國航船ト稱スルハ支那朝鮮ノ間ニ於ケル鴨綠紅ヨリ露領黑龍江ニ至ルノ沿岸及ヒ薩哈連諸港ニ航スルモノモ亦包含ス

第一條　船長運轉手機關手ノ職ヲ執ル者ハ此規則ニ遵ヒ其職ニ應スル等級ノ免狀ヲ農商務卿ヨリ受ケ之ヲ所持スヘシ

第二條　免狀ハ甲乙及ヒ小形船機關手ノ三種トナシ又甲乙ノ兩種トモ船長、一等運轉手二等運轉手、二等機關手、三等機關手ノ五ニ分チ各々試驗規程ニ從ヒ及第セシ者ニ授與スヘシ

第三條　試驗ノ規程ハ第壹号布達ニ據ルヘシ

第四條　高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルヲ得下等ノ免狀ハ高等ノ免狀ニ代用スルヲ得ス

甲種船長ノ免狀ハ乙種船長ノ免狀ニ對シ高等ノ効力ヲ有シ運轉手、機關手ノ免狀ニ換ケルモ亦同シ

乙種二等運轉手ノ免狀ハ從前ノ小形船々長ノ免狀ニ對シ高等ノ効力ヲ有シ乙種二等機關手免狀ノ小形機關手免狀ニ於ケルモ亦同シ

第五條　從前授與シタル本免狀ハ甲種免狀ト同一ノ効力ヲ有シ又假免狀ハ當分ノ內乙種免狀ニ代用スルヲ得

從前授與シタル小形船々長ノ免狀ハ其効力ヲ存シ又從前ノ小形船機關手ノ免狀ハ當分ノ內本則ノ小形船機關手免狀ニ代用スルヲ得

第六條　免狀ノ書換又ハ再授ヲ請フトキハ手數料金壹圓ヲ納ムヘシ但再授ヲ請フ者ハ二名以上ノ證人ヲ要ス

第七條　免狀ハ其筋吏員ノ指圖ニ應シ何時タリトモ其檢査ヲ受クヘシ

第八條　甲種免狀試驗課程ニ合格スト認メタル外國政府ノ本免狀ヲ所持セル船長運轉手機關手ハ更ニ試驗ヲ要セス原免狀同等ノ免狀ヲ授與スヘシ

第九條　左ノ三項ニ記載スル各船ハ其所用ノ區別及ヒ登錄噸數公稱馬力ノ限度ニ從ヒ應等若クハ高等ノ免狀ヲ受有スル職員ヲ乘組マシムヘシ

第一項

三百噸未滿	外國航船	甲種免狀船長 同一等運轉手	一名以上
三百噸以上	同	甲種免狀船長 同一等運轉手 同二等運轉手	同 同 同
一百馬力未滿	同	同一等機關手	同
增一百馬力以上	同	同一等機關手 同二等機關手	同 同

第二項

一百噸以上三百噸未滿　内國航船　乙種免狀船長　同一等運轉手　同

三百噸以上五百噸未滿　同　同船長　同一等運轉手　同二等運轉手　同

五百噸以上　同　甲種免狀船長　同一等運轉手　同二等運轉手　同

二十馬力以上五十馬力未滿　同　乙種免狀二等機關手　同

五十馬力以上一百馬力未滿　同　乙種免狀一等機關手　同若クハ甲種免狀二等機關手　同

一百馬力以上　同　甲種免狀一等機關手　同二等機關手　同

第三項

二十噸（潮船ハ拾噸）以上　同　乙種免狀二等運轉手　若クハ從前ノ小形船々長　同

一百噸未滿二十馬力未滿　同　小形船機關手　同

二十馬力未滿　港内若クハ湖川用小形船機關手　同

但シ二十馬力以上ノモノハ第二項ニ準ヒ機關手ヲ乘組マシムヘシ

前記各項ニ從ヒ應等若クハ高等ノ免狀ヲ受有セス或ハ禁止停止ニ係リ受有シ能ハスシテ其職ヲ執リ出航スル者及ヒ之ヲシテ其職ヲ執ラシメ又ハ其職員ヲ減シテ出航セシムル者ハ各貳圓以上二百五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第十條　農商務卿ハ船長、運轉手、機關手ノ校術劣等ニシテ其職ヲ執ルニ不適當ナリト考察スルトキ又ハ左ニ掲クル事項ニ於テハ其筋吏員ヲシテ之ヲ審問セシメ其免狀ノ使用ヲ停止シ或ハ禁止スルコトアルヘシ

第一　亂醉、粗暴其他ノ不品行若クハ指揮ニ悖戻シ又ハ職務ニ怠ル者

第二　失錯又ハ不當ノ所爲ニ由テ船ヲ失ヒ或ハ棄テ或ハ之ニ大損害ヲ生シ又ハ人命ヲ害ヒ或ハ大傷ヲ被ラシメシ者

第三　輕罪以上ノ刑ニ處セラレタル者

第十一條　前條審問中檢察官又ハ被害者ヨリ裁判所ニ出訴スルトキハ農商務卿其審問ヲ中止シ裁判確定ヲ俟テ之ヲ處分スヘシ

第十二條　免狀ノ使用ヲ停止シ或ハ禁止スルトキハ農商務卿其免狀ヲ取揚クヘシ若シ之ヲ拒ムモノハ貳圓以上貳百五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

但シ第九條未項ノ罪ト俱ニ發スル時ハ罰金ヲ並ニ科スヘシ

第十三條　免狀使用ノ停止或ハ禁止ノ處分ニ服セサル者ハ其筋ヘ上訴スルヿヲ得ヘシ

第十四條　免狀ノ使用ヲ禁止シタル者ト雖モ一ケ年ノ後ニ至リ農商務卿ノ考察ヲ以テ更ニ相當ノ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

○太政官布告第四十三號　明治十四年九月十三日

明治九年六月第八十二號同十年一月第二十四號同十一年五月第八號十二月第三十七號同十二年二月第九號同年五月第十九號布告中內務省又ハ大藏省トアルハ農商務省ト改正內務卿又ハ大藏卿トアルハ農商務卿ト改正候條此旨布告候事

○北海道諸產物出港稅則並各港船改所規則

○太政官布告第六十六号　明治十四年十二月十六日

明治十年八月第五十六号布告北海道諸產物出港稅則並各港船改所規則第二條中左ノ通改正ス

右奉　勅旨布告候事

第二條　船改所同派出所ノ內

渡島國津輕郡福山港ヲ松前郡福山港ト改ム

同國福島郡吉岡ヲ松前郡吉岡ト改ム

同國上磯郡當別ヲ上磯郡石別ト改ム

○株式取引所條例

○太政官布告第六拾四號　明治十五年十二月二十七日

明治十一年五月第八號布告株式取引所條例中左ノ通改正追加ス

第三十三條　取引所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其違約ニ依リ取引所ノ取引上ニ於テ失ヒタル利得ト蒙リタル損害トヲ其者ノ證據金及ヒ身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルニ止ルヘシ而シテ仍ホ其損失ヲ償フコト能ハサルトキハ取引所ニ於テ其責ニ任スヘシ

第四十條　賣買主ニ於テ諸證據金ノ差入レヲ怠リ又ハ期限ニ至リテ其約定ヲ履行セサル者ハ都テ之ヲ違約人ト爲スヘシ

第四十九條　官員檢査ノ節取引所役員及ヒ仲買人等簿冊書類ヲ差出スコトヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辨ヲ爲サヽル者アルトキハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第五十條　取引所ノ規約ニ背犯シタル役員及ヒ株主仲買人ヲ取引所限リ處分スルハ之ヲ除名スルカ或ハ過怠料ヲ取立ツルニ止ルモノトス

但其過怠料ハ株金身元金ノ高ニ超ユルヲ得ス

右奉　勅旨布告候事

○太政官布告第六拾七號　明治十五年十二月二十七日

明治十一年九月第三拾號布告株式取引所税額ノ儀手數料其他現収セル總高金十分ノ一トアルヲ賣買手數料總金高十分ノ一ト改ム但來十六年四月一日ヨリ施行ス

右奉　勅旨布告候事

○米商會所條例

○太政官布告第廿六號　明治十五年五月二十五日

明治九年八月第百五号布告米商會所條例中左ノ通改正追加シ來ル七月一日ヨリ施行ス

但明治八年五月第八拾八号布告ハ廢止トス

第八條　第二節　仲買人タルモノハ他人ノ依頼ヲ受ルニアラサレハ賣買取引ヲナスコトヲ得ス其賣買取引ニ付會所ニ對シ自己ノ名義ヲ以テシ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負擔スヘシ但一口ノ取引ニ付賣買雙方ノ依頼ヲ受クルヲ得ス

第九條　第一節　外國人ヲ株主並仲買人ト爲スコトヲ得ス

第二節　會所ニ於テ賣買取引ヲ爲スモノハ其會所ノ仲買人ニ限ルヘシ

第三節　會所ニ於テハ貸附金ヲナスヘカラス又仲買人ノ身元金及證據金ヲ使用スヘカラス

第四節　會所ハ此條例ノ旨趣ニ基キ賣買主双方ノ約定ヲ履行セシムルノ責任

アルモノトス

第五節　會所ハ左ノ場合ニ於テハ賣買ノ違約人トシテ會所限處分スルコトヲ得

第一　賣買主双方若クハ一方ノ其會所ニ差入ヘキ證據金ノ差入方ヲ怠リタルトキ

第二　賣買主双方若クハ一方其取引約定ノ期日ニ至リ其約定ヲ執行セサルトキ

第三　會所ニ於テ定メタル現米檢査ノ方法及受渡上ノ期約ニ背キタルトキ

第六節　會所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其違約ニ依リ會所ノ取引上ニ於テ失ヒタル利得ト蒙リタル損害トヲ其者ノ證據金及身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルニ止ルヘシ而シテ仍ホ其損失ヲ償フヿ能ハサルトキハ會所ニ於テ其責ニ任スヘシ

第十三條　第一節ヘ但書追加

但其資本金賣買取引ノ景況ニ對シ不適當ト認ルトキハ農商務卿ハ其適當ノ金額ニ增加スヘキ旨ヲ命スルヿアルヘシ

第十五條　第一節會所ハ會所ニ於テ領收セシ賣買手數料總金高十分ノ四ヲ稅納スヘシ而シテ其稅金前半年分ハ七月中後半年分ハ翌年一月中之ヲ地方廳ヘ上納スヘシ

第十六條　第一節會所及仲買人ハ每日取扱ノ事項並金穀出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且其簿記ノ方法ニ於テハ農商務卿ノ差圖アルトキハ其差圖ニ從フヘシ

第二節　會所及仲買人ニ於テ使用スル所ノ諸帳簿ハ其名目用法ヲ詳記シ之ヲ農商務卿ニ屆出ヘシ

第三節　會所ハ賣買實際ノ景況及金穀出納其他役員ノ進退並株主ノ異同仲買人ノ退社ヲ農商務卿ニ報告スヘシ

第十七條　第一節地方長官ハ時々官員ヲ派出シ會所及仲買人營業ノ撰樣其他諸帳簿並現米ノ所在其受渡ノ實況及會所ノ現金等ヲ査驗セシムヘシ又時トシテハ農商務省ヨリ官員ヲ派出シ之ヲ檢査セシムルコトアルヘシ若シ右檢査官員ヨリ疑問等アルトキハ會所ノ役員及仲買人等ハ逐一答辨ヲ爲サヽルヘカラス

第十八條　第一節會所ヨリ農商務卿ニ差出スヘキ文書中諸願ハ二通其他ハ一通宛ニシテ其差出方ハ地方廳ヲ經由スヘシ

第十九條　第四節會所ノ規約ニ背犯シタル役員株主仲買人ヲ會所限リ處分スルハ之ヲ除名スルカ或ハ過怠料ヲ取立ルニ止ルモノトス但其過怠料ハ株金身元金ノ高ニ超ル

ヲ得ス

第廿條　營業停止及禁止

第一節　地方長官ハ會所ノ賣買ニ不正惡弊アルカ又ハ賣買取引上ノ景況穩當ナラサル爲メ公共ニ妨害ヲ及ホスト認ルトキハ其會所又ハ仲買人ノ營業ヲ停止シ其旨ヲ農商務卿ニ上申スヘシ農商務卿ハ其情狀ニ依リ會所又ハ仲買人ノ營業ヲ禁止シ又ハ役員ヲ退役セシムルコトアルヘシ

○太政官布告第四十六號　明治十五年八月十九日

米商會所及ヒ株式取引所ノ賣買ニ不正惡弊アルカ又ハ賣買取引上ノ景況穩當ナラサル爲メ公共ニ妨害ヲ及ホスト認ムルトキハ農商務卿ハ其會所又ハ仲買人ノ營業ノ一部又ハ全部ヲ停止若クハ禁止シ又ハ役員ヲ退職セシムルコトアルヘシ

但本年第貳拾六號布告米商會所條例追加第二十條ハ削除ス

右奉　勅旨布告候事

○太政官布告第六十六号　明治十五年十二月二十七日

明治九年八月第百五号布告米商會所條例第十條第三節中約定代金高十分ノ二トアルヲ十分ノ一ト改メ第十五條第一節中賣買手數料總金高十分ノ四トアルヲ十分ノ二ト改ム但來十六年四月一日ヨリ施行ス

右奉　勅旨布告候事

○太政官布告第四号　明治十六年一月十五日

米商會所株式取引所ノ限月若クハ現場賣買ノ方法ニ倣ヒ又ハ之ニ類似ノ方法ヲ用ヒ諸物品ノ賣買取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ總テ明治十三年四月第貳拾壹号布告ニ據リ處分スヘシ

右奉　勅旨布告候事

○米商會所並株式取引所仲買人納税規則

○太政官布告第六拾五號　明治十五年十二月二十七日

米商會所并株式取引所仲買人納税規則左ノ通制定シ來十六年四月一日ヨリ施行ス

米商會所株式取引所仲買人納税規則

第一條　米商會所仲買人定期賣買ヲ爲ストキハ賣買雙方ヨリ各約定代金高千分ノ五ヲ納税スヘシ

第二條　株式取引所株式仲買人公債證書并諸株式ノ定期賣買ヲ爲ストキハ賣買雙方ヨリ各約定代金高千分ノ一ヲ納税スヘシ

第三條　第一條第二條ノ場合ニ於テ定期内ニ轉賣又ハ買戻ヲ爲ス者ハ其轉賣又ハ買戻ニ係ル税ヲ免除ス

第四條　株式取引所金銀貨仲買人金銀貨ノ取引ヲ爲ストキハ賣買雙方ヨリ各其取引代金高千分ノ二半ヲ納税スヘシ

第五條　賣買ヲ解約スルコトアルモ其税金ハ之ヲ還付セス

第六條　税金ハ會所又ハ取引所ニ納ムヘシ

第七條　會所及取引所ハ仲買人ヨリ納メタル税金ヲ毎一箇月取纏メ翌月十日限リ地方廳ニ上納スヘシ

第八條　税金徴收ノ方法ハ大蔵卿ノ達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第九條　大蔵卿ハ地方廳ニ委任シ又ハ隨時官吏ヲ派出シ納税ノ精算ヲ檢査セシムヘシ

第十條　税金ヲ納メスシテ賣買取引スル者ハ脱税高三倍ノ罰金ニ處ス但此場合ニ於テハ仲買人タルノ認許ハ其効ヲ失フモノトス

第十一條　前條ノ罰金ハ仲買人ノ身元金ニ對シテ第一先取ノ特權ヲ有スヘシ

第十二條　會所及取引所ニ於テ本則納税ノ取締ヲ怠ルトキハ米商會所條例第十九條第一節株式取引所條例第四十八條及本年第四十六號布告ニ依リ處分シ仍ホ其資本金ヲ以テ納税ノ欠額ヲ追徴スヘシ

右奉　勅旨布告候事

○地所規則ノ内

○太政官布告第三拾四號　明治十五年七月二十四日

脫税ノタメニ土地ヲ欺隱スル者ハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ租税ヲ追徵ス但地租改正ノ初年以前ニ遡ルコトヲ得ス

其罪ヲ犯シ自首スル者ハ罰金ヲ免ス其追徵スヘキ租税ハ仍ホ之ヲ納メシム

右奉　勅旨布告候事

○舷燈製造及販賣規則

○農商務省布達甲第四号　明治十四年八月二十五日

本年五月第三拾四号公布相成候ニ付明治九年二月丙第五号内務省達舷燈製造及ヒ販賣規則別紙之通改定候條此旨布達候事

別紙

船燈製造及販賣規則

第一條　船燈檣燈及舷燈ヲ製造セント欲スル者ハ先ツ其見本ヲ製シ之レヲ其管轄廳ヲ經テ當省ヘ差出シ製造免許ヲ乞フヘシ

第二條　當省ニ於テハ其見本ヲ檢査シ製造方法ニ適合セルモノト看認ルトキハ製造人ヘ其管轄廳ヲ經テ製造免許鑑札ヲ下附スヘシ

第三條　製造免許鑑札ヲ得タル者ハ其氏名地名ヲ新聞紙ニテ廣告シ且免許船燈製造所ト記セル看板ヲ掲出スヘシ

第四條　免許船燈製造人改名又ハ轉籍スルトキハ其旨管轄廳ヘ届出ヘシ

第五條　製造ノ船燈ヘハ何レモ左式ニ準スル文字ヲ彫刻スヘシ

第何番

何國何郡何地

免許製造人　何　某

第六條　船燈ヲ販賣セント欲スル者ハ何レモ其管轄廳ヘ免許製造人ノ製造セル船燈ヲ販賣シ度旨ヲ申出其廳ノ販賣免許ヲ受クヘシ

第七條　船燈販賣免許ヲ得タル者ハ鋪頭ニ免許船燈販賣所ト記セル看板ヲ掲クヘシ

第八條　免許ヲ得タル船燈製造人ハ自ラ販賣人ヲ兼ルヲ得ヘシ此場合ニ於テハ別ニ管轄廳ヨリ販賣免許ヲ受ルニ及ハス

第九條　免許製造人及販賣人ノ員數ハ地方ノ實況ニ應シ管轄廳ニ於テ之ヲ增減スルヲ得ヘシ

第十條　管轄廳ニ於テハ船燈製造所及ヒ販賣所ヘ不時ニ吏員ヲ派出シ製造方法ニ照シテ其適否ヲ監査セシムヘシ但シ當省主務ノ官吏ヲ派出シテ不時ニ監査セシムルヿア

ルヘシ

第十一條　船燈製造方法書ハ商務局ニ於テ刊行シ各地方廳及ヒ免許製造人並販賣人ヘ配付スヘシ

○徴發令

○太政官布告第四拾三號　明治十五年八月十二日

徴發令別冊ノ通制定ス

右奉　勅旨布告候事

徴發令

第一條　徴發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徴發スルノ法トス

但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ准ス

第二條　徴發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徴發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條　左ニ記列スル官憲ハ徴發書ヲ出スノ權ヲ有ス

一　陸軍卿海軍鎮臺司令官及ヒ鎮守府長官

二　陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長

三　海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長

第四條　徴發ス可キモノヽ種類ニ依リ徴發區ニ准ス會社モ之ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　第十二條第一項ハ　府縣

二　第十二條第二項及ヒ第三項ハ　郡區

三　第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ　町村

四　船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ滊車ハ　會社

第五條　徴發ス可キモノハ徴發區內ニ現在スルモノニ限ル

第六條　徴發書ハ徴發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ

第七條　徴發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス

第八條　各徴發區ニ於テハ臨時徴發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス

第九條　徴發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違フトキハ府知事縣令郡區長戸長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分

ヲ爲スヿ可シ

第十條　徵發ヲ課セラレタルモノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ濫匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條　供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證票ヲ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ

第十二條　徵發ス可キモノ左ノ如シ

一　米麥秣鹽味噌醬油漬物梅干及ヒ薪炭

二　乘馬駄馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具

三　人夫

四　宿舍廐圉及ヒ倉庫

五　飲水石炭

六　船舶

七　鐵道濠車

八　演習ニ要スル地所

九　演習ニ要スル材料器具

第十三條　職時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲クルモノヽ外徵發ス可キモノ左ノ如シ但平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス

一　造船所工作所及ヒ軍事ノ工作ニ要スル材料器具

二　職工礦夫洗濯人ノ類

三　被服裝具艸鞋兵器彈藥船具寢具藥劑治療器械及ヒ繃帶具

四　水車搗舂ノ類

五　病院

第十四條　第十二條第三項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

一　皇族所用ノ車馬

二　外國公使館并ニ領事館ニ屬スル車馬

三　乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹

四　郵便用ノ車馬

五　公認セラレタル種牛種馬

第十五條　第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

一　公務ニ屬スル廨署

二　皇族ノ邸宅

三　外國公使館領事館及ヒ其所屬館

四　鐵道電信郵便用ノ建造物
五　陸海軍將校幷ニ同等官現住ノ家屋
六　博物館書籍館
七　病院盲啞院乘見院
八　學校但臨戰合圍地境内ニ在リテハ此限ニ在ラス
九　製造場内機械室

第十六條　第十二條第二項ニ掲クルモノハ使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス

第十七條　第十二條第二項ニ掲クルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得

第十八條　第十二條第四項ニ掲クルモノハ合圍地境内ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス

第十九條　宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム

第二十條　第十二條第四項ニ掲クルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ

指定スルコトアル可シ

第二十一條　宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サス廐圍倉庫亦同シ

第二十二條　宿舍廐圍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス

第二十三條　第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘戰人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム

第二十四條　第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可シ

第二十五條　第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個分別シテ徵用スルコトヲ得

第二十六條　第十二條第六項ニ掲クルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及ヒ艀船ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條　第十二條第七項ニ屬スル汽車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル

第二十八條　第十三條第五項ニ掲クルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例ト

ス但合圍地境内ニ在リテハ全ク明滅サシムルコトヲ得

第二十九條　徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條　徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送費ヲ支辨セス

第三十一條　賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滯シテ三ケ月ヲ越ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付スル

第三十二條　賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戶長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求ス可シ

第三十三條　徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ區戶長ニ屆出ヘシ

其屆出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ユ可カラス若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限中持主若クハ操業者ニ於テ使用セシトキハ無効トス

一　西洋形船舶　七日間

二　地廣ニ　評價委員ノ告示スル時日間

三　其他ノ物件　十日間

第三十四條　第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ケ年間ノ平均價ヲ取リ之ヲ定ム其平均價ノ取リ難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條　第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トヲ各個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條　第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラス賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條　第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上クルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條　第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條　第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條　第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條　第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノヽ外左ノ區別ニ從フ

一　出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃

二　定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乘載量五分ノ三ニ滿チタル以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿タサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃

三　出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條　第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航船賃及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一ケ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

第四十三條　第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ損料トス但船橋及ヒ艀船ニ充テタルモノヽ賠償金額ハ第四十一條第三項ニ准ス

第四十四條　第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノヽ外平常ノ定賃トス

第四十五條　第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員

ノ評定ニ任ス

第四十六條　第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキニ限リ賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條　第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス

第四十八條　第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十九條　第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第五十條　第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フテ賠償ス全ク明瀆サシムルトキハ第三十九條ノ例ニ准ス

第五十一條　徵發ヲ拒ミ或ハ規避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十二條　徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲サヽルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金

ヲ附加シ其解怠ニ出ルモノハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條　徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲妄ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ出シタルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劍官ヲ附加ス

○請願規則　明治十五年十二月十二日

○太政官布告第五拾八號

請願規則左ノ通制定ス

請願規則

第一條　人民各自ノ利害ニ關シ行政上ノ處分ヲ請願セントスル者ハ左ノ條規ニ依ルヘシ

第二條　郡區長及戶長職務內ノ事件ハ郡區長戶長ニ請願スヘシ郡區長戶長ノ指令ニ服セサル者ハ府知事縣令ニ請願シ府知事縣令ノ指令ニ服セサル者ハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得

府知事縣令警視總監職務內ノ事件ハ府知事縣令警視總監ニ請願スヘシ府知事縣令警視總監ノ指令ニ服セサル者ハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得

各省卿職務內ノ事件ハ其卿ニ請願スヘシ其指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得

第三條　凡ソ請願スル者ハ書面ヲ以テスヘシ口陳スルコトヲ許サス官署ノ求メニ應シテ開陳スルハ此限ニ在ラス

第四條　請願書ハ請願人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ戶長ニ請願スル者ヲ除シ外住所戶長ノ奥印ヲ受クヘシ

其連名ヲ以テ請願スル者ハ各人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ其總代又ハ請願發起人アルトキハ其由ヲ肩書スヘシ戶長ノ奥印ヲ受ルハ前ノ例ニ同シ

第五條　府縣郡區總代又ハ結社總代ノ名ヲ以テ請願スルコトヲ得ス

但組成法ニ制定セラレタル會社ハ此限ニ在ラス

第六條　請願書ヲ上呈スルニ代人ヲ以テスルコトヲ許サス數人連名スル者ハ請願人中ニ於テ三名以下ノ總代人ヲ撰ヒ之ヲ委托スヘシ

第七條　請願書ハ郵便ヲ以テ上呈スルコトヲ得

第八條　上司ニ呈スル請願書ニハ其經歷スル所ノ官署ノ指令書ヲ添フヘシ

第九條　請願書ノ郵達ヲ得タル各省若シ其主務ニ非サルトキハ直チニ之ヲ主務省ニ移シ其由ヲ請願人ニ通知スヘシ

第十條　太政官ニ於テ請願ヲ裁可スルトキハ主務省ニ付シテ處分セシムヘシ

第十一條　太政官ノ裁令ヲ經タル者ハ更ニ請願スルコトヲ得ス又裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

第十二條　請願ヲ名トシテ行政處分ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條　凡ソ事ノ建白ニ屬スヘキ者ハ人民各自ノ利害ニ係ルヲ以テ請願スト雖モ受理セス

第十四條　行政處分ノ既ニ五年ヲ經タル者ハ請願ヲ受理セス

第十五條　請願人第二條ノ順序ヲ經ス及第三條第四條第五條第六條第八條第十一條ノ規程ニ循ハサル者ハ受理セス

第十六條　請願書ニ侮辱誹毀ノ語ヲ用ヒ及第二條ニ示ス所ノ官署ノ外ニ向ヒ請願スル者ハ受理セス

第十七條　條規ニ違ヒ受理セラレサルノ請願ヲ以テ强テ受理ヲ乞フ者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス其連名請願スル者ハ情ヲ知ラサル者ヲ除ク外各人均ク罪ヲ論ス其發起人ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス若シ請願人ノ外教唆者アルトキハ發起人ト同ク罪ヲ論ス其嘯聚ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第十八條　請願人官吏ニ對シ抗論シ喧擾ニ涉ル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

其侮辱ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第十九條　請願書ハ新聞紙其他ノ文書ヲ以テ公行スルコトヲ許サス犯ス者ハ罪前條第一項ニ同シ

第二十條　請願ニ由リ人ヲ誣告スル者ハ刑法ニ依テ處分ス

右奉　勅旨布告候事

○石油取締規則

○太政官布告第六號　明治十六年二月十五日

明治十四年八月第四十號及ヒ同年九月第五十號布告ノ通改定ス

但施行日限ノ儀ハ明治十五年八月第四十四號布告ノ通クルヘシ

第一條　石油ヲ分テ二種トシ閉塞發焰試驗法ヲ用ヒ攝氏驗溫器三十度（華氏八十六度）以上ノ溫度ニ達セサレハ發焰セサルモノヲ第一種トシ三十度ニ達セスシテ發焰スルモノヲ第二種トス

第二條　點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二種ノ石油ハ醫療製藥調劑及ヒ物理學化學工藝上ニ於テ藥用ニ供スルノ外之ヲ用フルヲ許サス

第三條　石油營業者ヲ分テ擴業者精製者問屋及ヒ小賣商ノ四類トス其營業者ハ都テ管轄廳東京府下ハ警視廳ノ許可ヲ受クヘシ但二類以上兼業スルトキハ別ニ其許可ヲ受クヘシ

第四條　石油ノ種類ハ內務卿ノ必要トスル地方ニ於テ檢査員ヲシテ之ヲ檢査セシムヘシ

石油ハ檢査濟ノ證アルモノニアラサレハ之ヲ販賣スルヲ許サス但製業者ヨリ精製者ニ販賣スルハ此限ニアラス

第五條　檢査濟ノ石油ヲ家屋內ニ貯藏スルヲ得ルハ第一種ノ石油五石以內第二種ノ石油五斗以內トシ容器ハ漏出ノ虞ナキ不燃質物ニ限ルヘシ

第六條　石油營業者前條制限外ノ石油幷ニ檢査未滿ノ石油ヲ貯藏スル場所建物及ヒ精製所ノ構造方ハ都テ管轄廳東京府下ハ警視廳ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　第二種ノ石油ハ精製者問屋ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限リ販賣スルヲ得ルモノトス

第八條　第二種ノ石油ヲ販賣スル者ハ購買者ヨリ其數量及ヒ需用ノ趣意年月日住所氏名ヲ詳記シタル書付ヲ取リ置キ一年間保存スヘシ但販賣時限ハ日出ヨリ日沒マテトス

第九條　石油ヲ運搬スルトキハ其石油タルコトヲ表記スヘシ但其積卸ニ必用ナル時間ノ外物揚場又ハ路傍ニ置クヘカラス

第十條　此規則ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

右奉　勅旨布告候事

○太政官布告第十号　明治十六年三月十六日

明治十五年八月第四十四号及本年二月第六号布告石油取締規則施行日限ノ儀ハ追テ布告候マテ延期ス

右奉　勅旨布告候事

○清國及朝鮮國在留日本人取締規則

○太政官布告第九號　明治十六年三月十日

清國及朝鮮國在留日本人取締規則左ノ通制定ス

第一條　清國及朝鮮國駐劄ノ領事ハ在留ノ日本人該地方ノ安寧ヲ妨害セントスル者又ハ其行爲ニ因リ該地方ノ安寧ヲ妨害スルニ至ルヘキ者ト認定スル時ハ一年以上三年以下在留スルコトヲ禁止スヘシ但其情狀ニ由リテハ其期限間相當ノ保證金ヲ出サシメ在留セシムルコトヲ得

第二條　在留ヲ禁止セラレタル者ハ十五日以內ニ退去スヘシ若シ期限內退去シ難キ正當ノ事由アリテ其旨ヲ申立ル時ハ領事ハ相當ノ猶豫期限ヲ與フルコトヲ得

第三條　保證金ヲ出シタル者再ヒ第一條ノ擧動アリト認定スル時ハ領事ハ其保證金ヲ沒收シ仍ホ在留ヲ禁止スヘシ

第四條　退去期限若シハ猶豫期限内ニ退去セサル者及禁止期限ヲ犯シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條　此規則ノ處分ニ對シテハ上訴ヲ許サス

右奉　勅旨布告候事

○太政官布告第拾壹號　明治十六年四月五日

朝鮮國ニ於テ行步規程ヲ犯シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

右奉　勅旨布告候事

○雜則

密賣淫

○太政官布告第六十四号　明治十四年十二月九日

密賣淫ノ儀ハ刑法第四百二十五條第十項ニ明文有之候ヘトモ當分ノ内其取締懲罰ハ從前ノ通東京ハ警視廳其他ハ地方官ヘ委任ス

右奉　勅旨布告候事

富籤賣買牙保幇助及購買者處分方

○太政官布告第廿五号　明治十五年五月廿四日

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保幇助ヲ爲シ及富籤ヲ購買シタル者處分方左ノ通制

第一條　凡富籤賣買ノ牙保若シハ幇助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條　凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトヲ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及他人ヨリ讓リ受ケタル者亦同シ

第三條　第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルヿヲ得ス

第四條　富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條　富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス

第六條　富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス

自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

右奉　勅旨布告候事

水底電信線路投錨漁業等禁止

○太政官布告第貳拾號　明治十五年九月十二日

靜岡縣下遠江國濱名港ニ別紙圖面朱線ノ通電信水底線布設候條線路標木ヨリ南北各拾間以内ニ於テ諸船桴筏繫留及投錨ハ勿論漁業海草採取土砂堀取等禁止ス

右布達候事

○太政官布告第貳拾壹號　明治十五年十月十日

（別紙圖面畧）

青森縣下陸奥國東津輕郡一本木村ヨリ函館縣下渡島國函館區東川町ヘ別紙圖面ノ通海底電信線ヲ設置候條右線路左右各二百間以内ニ於テ船艦投錨漁業採藻等之ヲ禁止ス

但明治七年十月工部省第貳拾七號十年八月第拾壹號布達ハ廢止ス

右布達候事

○太政官布告第二十三號　明治十五年十一月十五日

（別紙圖面畧）

岡山縣下備前國兒島郡藤川村ヨリ愛媛縣下讃岐國阿野郡乃生村ヘ別紙圖面ノ通海底電信線改設候條右線路左右各二百間以内ニ於テ船艦投錨漁業採藻等之ヲ禁止ス

但工部省布達明治九年十二月第二十二號及十二年二月第二號備前讃岐間海底線ノ項ハ廢止ス

右布達候事

○太政官布告第五號　明治十六年二月十日

水底電信線路ニ於テ投錨漁業採操等ノ禁ヲ犯ス者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

右奉　勅旨布告候事

醫業

○太政官布告第三十九號　明治十五年八月十一日

醫師タル者醫業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ中央衛生會ノ審議ヲ經内務卿ニ於テ其業ヲ停止若クハ禁止スルコトヲ得

但其事開業免許ヲ得ルノ前ニ在リト雖モ本項ニ準シテ處分スルコトアルヘシ

右奉　勅旨布告候事

大尾

明治十六年五月廿一日御届
同　年仝月　刻成

編纂者　滋賀縣士族　林好本
阿波國名東郡德島町
第百六十一番地

出版人　滋賀縣平民　原田義圓
近江國大津西今處町
第九番地

定價二錢五厘

東京圖書館
新書門
部類函架號冊
五十七